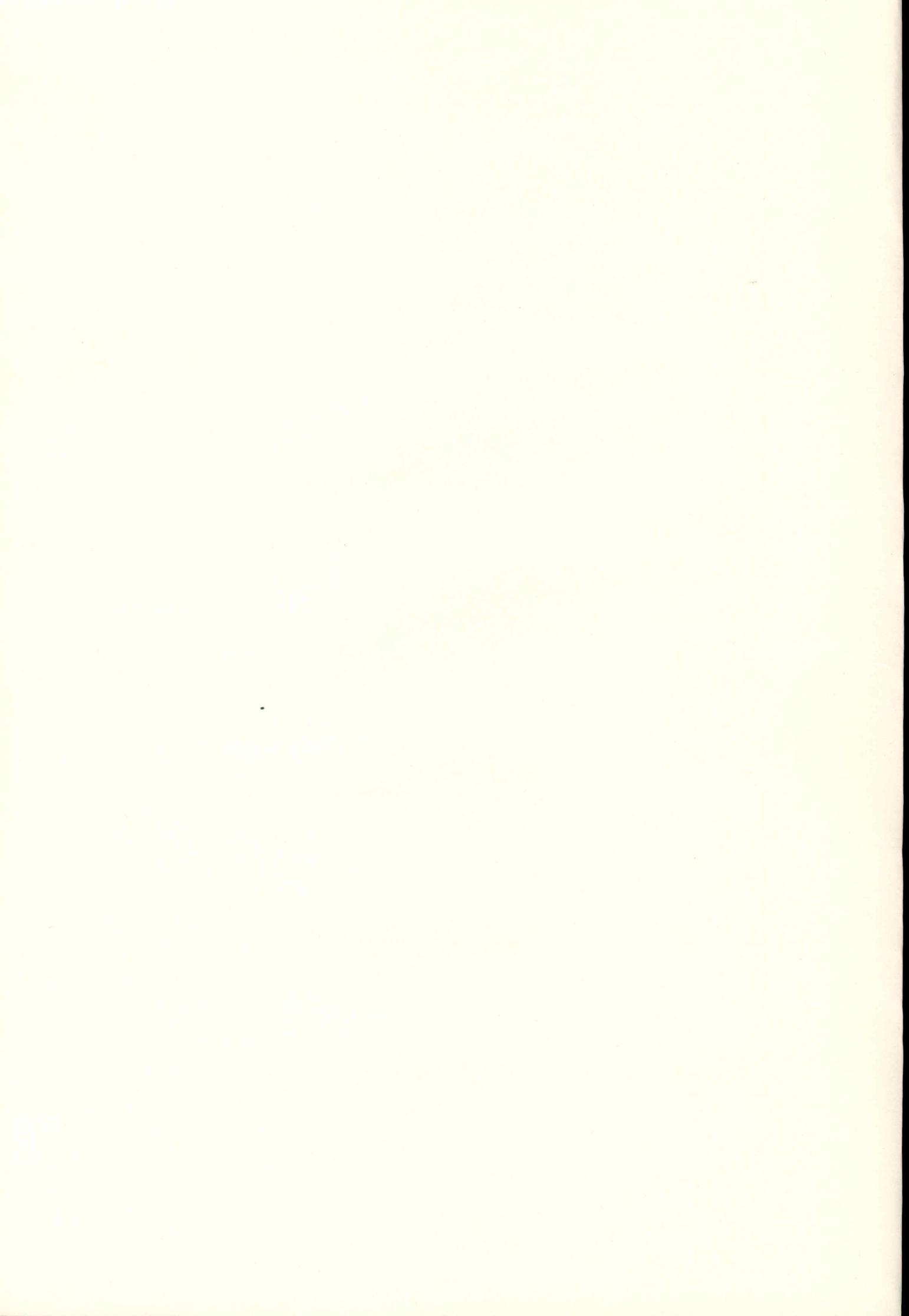




CHIBA PREFECTURAL MUSEUM OF ART

千葉県立美術館 年報 No.23

April 1996-March 1997
ANNUAL BULLETIN OF
CHIBA PREFECTURAL
MUSEUM OF ART





目 次

ごあいさつ	1
沿革	2
平成8年度主要記事	4
展示事業	5
常設展	6
特別展	15
企画展	22
普及事業	25
美術講演会・ミュージアムコンサート・教養講座とヨーロッパの旅	26
実技講座	27
こども写生会・情報資料室・活動協力	28
調査・収集事業	32
収蔵資料	33
管理運営	35
機構	36
平成8年度職員・協議会委員	37
利用状況	38
展示室利用団体	39
施設	43
関係法令等	47
利用案内	48



ご あ い さ つ

平成8年度の千葉県立美術館における活動の実績を年報としてまとめました。

本館は昭和49年の開館以来、地域美術館及び近代美術館としての活動を通して、県民のさまざまな美術に対する要望にこたえるよう努めてまいりました。

8年度は、特別展として、アル・ヌーヴォーを代表する画家、アルフォンス・ミュシャのポスター、油彩等による「アルフォンス・ミュシャ『生涯と芸術』展」と、草土社、春陽会などで活躍し、本県の美術振興に多大な功績を残した椿貞雄の生誕100年を記念した「椿貞雄展」を開催しました。企画展としては、全国公募による「第4回浅井忠記念賞展」を実施しました。

一方、本館が収蔵する作品の展示については、種々のテーマに基づいた常設展を開催したほか、館外2地域において移動美術館を実施しました。

また、美術についての理解を深め、作品鑑賞の一助とするため、展覧会に関連づけて美術講演会を開催するとともに、〈浅井忠の足跡と近代絵画の流れ〉をテーマに、「教養講座とヨーロッパの旅」を実施しました。そのほか、子どもたちに創作の喜びを体験してもらうとともに、美術館活動に対する理解を深めてもらうため、県内の小学生を対象にした「子ども写生会」を開催しました。また、美術の各分野にわたる実技講座を実施し、ますます高まってる県民の美術創作に対する要望にこたえてまいりました。

さらに、作品の収集に当たっては、既に策定されている基本方針に基づき、作家や所蔵家の協力を得ながら、コレクションの体系化とその充実化を図りました。

今後とも、関係諸機関や各団体を始め、県民の皆様方の御指導と御支援をお願いいたします。

平成9年5月

千葉県立美術館

沿革

千葉県立美術館は、昭和43年にまとめられた県立博物館設置構想に基づき建設設計画をすすめ、昭和48年4月教育庁文化課に美術館準備室を置き、開館事務に当たった。同49年3月第1期工事の展示棟が完成し、4月1日千葉県立美術館として機関設置し、10月23日開館式を挙げ、一般公開を始めた。同51年に第2期工事の管理棟が、同55年2月に第3期工事の県民アトリエ棟、更に同63年8月の増築工事で展示棟及び収蔵庫が完成した。

昭和44年12月9日	第1回千葉県立美術館建設懇談会が開かれる（委員15名）	会」を開催一般公開を始める
昭和45年1月19日	県立美術館建設の請願書が2月県議会で採決される	管理棟杭打工事着工 管理棟建築工事請負契約議案可決される
昭和45年7月24日	建設地として千葉公園に内定する	昭和50年3月16日 管理棟建築工事着工（監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店）
昭和45年11月12日	第1回美術館設置準備専門委員会が開かれる（委員10名）	昭和51年2月20日 管理棟竣工
昭和46年3月31日	千葉公園内の美術館基本構想成る	昭和51年3月2日 管理棟完成記念特別展「浅井忠とその師弟展」を開催する
昭和46年6月24日	体育館移転問題等で千葉公園内建設が不可能となる 代案として千葉市中央港埋立地が提示される	昭和51年6月7日 寄附によって、正面玄関に植栽を行う
昭和47年1月5日	建設地を千葉市中央港の埋立地に決定し、使用について開発庁長と教育長で覚書を交換する	昭和52年3月12日 彫刻の屋外展示を始める
昭和47年3月31日	基本設計完了する（株式会社大高建築設計事務所）	昭和52年4月10日 展示棟の一室に美術普及室を開設する
昭和47年7月31日	展示棟第1期工事の実施設計完了する	昭和53年1月18日 外構工事として、駐車場が拡張され、100台の収容となる
昭和47年9月21日	展示棟杭打工事着工	昭和53年2月21日 美術普及棟の準備会が発足する
昭和47年10月13日	展示棟建築工事請負契約議案可決される	昭和53年10月17日 美術普及棟建築予算が計上される
昭和47年12月10日	展示棟建築工事着工（監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店）	昭和53年11月18日 浅井忠像完成除幕式
昭和48年4月1日	文化課に美術館準備班を置き、開館事務に当たる	昭和53年11月30日 美術普及棟実施設計完了する
昭和48年11月30日	管理棟（第2期工事）の実施設計完了する	昭和54年1月8日 美術普及棟を県民アトリエ棟と改称する
昭和49年3月31日	展示棟竣工	昭和54年3月5日 県民アトリエ棟建築工事請負契約議案可決される
昭和49年4月1日	千葉県立美術館発足する（職員14名）	昭和54年3月22日 県民アトリエ棟建築工事着工（監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店）
昭和49年10月23日	開館記念式典を行う	昭和55年2月29日 県民アトリエ棟竣工
昭和49年10月24日	開館記念展「千葉県美術展覧	昭和55年3月16日 県民アトリエ棟完成記念講演会
		昭和55年4月1日 千葉県美術品取得基金条例施行される
		昭和55年9月9日 県民アトリエ棟情報資料室を開設する
		昭和58年7月29日 美術普及コーナーを開設する
		昭和58年11月12日 開館10周年と県展開催35周年を記念した記念碑を建立する
		昭和61年3月25日 展示棟、収蔵庫、機械室増築工事設計料の予算化
		昭和61年4月10日 入口門扉4カ所設置
		昭和61年4月23日 美術館西側沿道寄りの生垣植栽
		昭和61年8月12日 講堂浸水防止工事
		昭和62年3月25日 機械室増築基本設計及び展示

	棟，収蔵庫，機械室増築工事 実施設計完了する	する
昭和62年10月15日	展示棟，収蔵庫，機械室増築 工事着工（監理・大高建築設 計事務所，施工・株式会社竹 中工務店）	平成2年6月8日 空調機改修工事完了する
昭和63年5月20日	受水槽設備改修工事（地上式） 着工	平成2年9月29日 収蔵庫（第1，2室）冷凍機 改修工事着工
昭和63年8月31日	受水槽設備改修工事（地上式） 完了する	平成2年11月7日 案内標識改修工事着工
昭和63年8月31日	展示棟，収蔵庫，機械室増築 工事完了する	平成3年1月31日 収蔵庫（第1，2室）冷凍機 改修工事完了する
平成元年2月28日	増築展示棟周辺芝張工事完了 する	平成3年2月20日 案内標識改修工事完了する
平成元年4月1日	普及課が新設され，3課とな る	平成3年12月6日 空調用ポンプ改修工事完了す る
平成元年4月20日	開館15周年記念特別展「房総 と近代美術」を開催する	平成4年4月1日 運営の一部が（財）千葉県社 会教育施設管理財団へ委託さ れる
平成元年9月11日	空調機改修工事実施設計完了	平成4年10月20日 湿温度記録装置改修工事完了 する
		平成4年12月18日 食堂改修工事完了する
		平成6年7月23日 開館20周年記念特別展「房総 の美術」を開催する

平成 8 年度 主 要 記 事

4月2日	常設収蔵作品展 「房総と近代美術」 「新収蔵作品」 「津田信夫」 (5月12日まで)	11月23日	常設収蔵作品展 「房総と近代美術」 「冬の風景」 (1月19日まで)
5月18日	特別展 アルフォンス・ミュシャ「生涯と芸術」展 (6月23日まで)	11月28日	企画展「第4回浅井忠記念賞展」 審査会
5月30日	洋画講座 (6月12日まで 日数9日)	12月17日	企画展「第4回浅井忠記念賞展」 審査結果発表
6月6日	版画講座 (6月21日まで 日数12日)	1月5日	書講座 (12月19日まで 日数3日) 常設収蔵作品展
6月8日	第1回美術講演会	1月25日	「彫刻」 (4月13日まで) 企画展「第4回浅井忠記念賞展」
6月25日	日本画講座 (7月10日まで 日数12日)	1月28日	・授賞式・レセプション ・展覧会 (2月23日まで)
6月29日	常設収蔵作品展 「房総と近代美術」 (10月6日まで) 「美術に表現された動物」 (8月25日まで)	3月1日	金工講座 (2月20日まで 日数12日) 常設収蔵作品展 「浅井忠」 (3月23日まで)
7月6日	常設収蔵作品展 「椿貞雄と県展の人々」 (8月25日まで)		
7月13日	第1回教養講座		
7月22日	博物館実習 (7月27日まで 日数6日)		
7月30日	陶芸講座 (9月11日まで 日数7日)		
8月24日	第2回教養講座		
8月31日	特別展「椿貞雄展」 (10月6日まで)		
9月8日	第1回こども写生会		
9月14日	第2回美術講演会		
9月21日	ミュージアムコンサート		
9月25日	第1回こども写生会展 (9月29日まで)		
9月28日	第3回教養講座		
10月15日	彫刻講座 (10月31日まで 日数12日)		
10月30日	企画展「第20回千葉移動美術館」 (白浜町フローラルホール 11月8日まで)		
11月9日	常設収蔵作品展 「房総の工芸」 (1月19日まで)		
11月14日	ヨーロッパの旅 (11月23日まで 日数10日)		
11月19日	企画展「第20回千葉県移動美術館」 (白井町郷土資料館 12月1日まで)		
11月22日	企画展「第4回浅井忠記念賞展」 公募作品搬入 (11月24日まで)		

展 示 事 業

常設収蔵作品展は、日頃鑑賞の要望の高い作品を選んで紹介する「房総と近代美術」などを始め、「椿貞雄と県展の人々」「美術に表現された動物」「房総の工芸」「冬の風景」「浅井忠」など、テーマに基づく構成により開催した。

特別展としては、「アルフォンス・ミュシャ『生涯と芸術』展」と、他の美術館との共同企画による「椿貞雄展」を実施した。

また、企画展として「第4回浅井忠記念賞展」と「第20回千葉県移動美術館」を白浜町と白井町で開催した。

常設収蔵作品展

「房総と近代美術」

「房総と近代美術」では、浅井忠や房総にゆかりの作家を始めとして、日頃鑑賞の要望の高い作品を紹介した。

会期	1	平成8年4月2日（火）～5月12日（日）	36日間
	2	6月29日（土）～10月6日（日）	82日間
	3	11月23日（土）～平成9年1月19日（日）	41日間
展示点数	1	21点	
	2	28点	
	3	26点	
入場者数	1	13,403人	
	2	37,050人	
	3	33,891人	

〈日本画〉

1	石井 林響	木華開耶姫	1906	13	小堀 進	雨後の山	1964
2	〃	桃源行	1913	14	〃	霞ヶ浦	1973
3	〃	蓬萊仙境之図	1927	15	〃	逆光	1974
4	〃	秋景山水	1928	16	安井曾太郎	熱海附近	1964
5	〃	山水図	〃	17	クールベ	雪の中の小鹿	1869頃
6	〃	高士觀瀑		18	コロ	ファンテンブローの風景	1830～35
7	〃	梅花書屋		19	〃	ナポリ近郊の思い出	1860～65
8	富取 風堂	朝光	1931	20	ファンタネージ	十月、牧場の夕べ	1860
9	〃	葛西風景	1937	21	〃	牛を追う農婦	1862頃
10	〃	残照	1954	22	〃	木立	1868～72
11	〃	暮色	1962	23	〃	池と樹木	1870～72
12	〃	雨の花	1963	24	ミレー	垣根に沿って草を食む羊	1860～61
13	〃	親子猿	1964				
14	〃	うすれ陽	1975			〈彫刻〉	
15	東山 魁夷	春雪	1973	1	高村光太郎	裸婦座像	1916頃
16	〃	秋深	1975	2	〃	手	1918
				3	〃	十和田裸婦像のための中型試作	1953

〈洋画〉

1	浅井 忠	藁屋根	1887頃	〈工芸〉			
2	〃	小丹波村	1893	1	香取 秀真	靈獸文大花瓶	
3	〃	漁婦	1897	2	〃	鳩香炉	1949
4	〃	ファンテンブローの夕景	1901	3	〃	笑獅子香炉	
5	〃	農婦	1902	4	津田 信夫	ラジエーターの装飾	1929
6	〃	婦人像	1907	5	〃	変貌七色	1933
7	石井 柏亭	聖フランチエスコ寺院	1923	6	〃	鳳翔薰炉	1937
8	梅原龍三郎	伊豆大仁風景	1929	7	〃	北辺夜猫子	1941
9	〃	竹窓読書図	1937	8	宮之原 謙	璧面照明銀河	1931
10	〃	純子像	1968	9	〃	盛上磁連星壺	1933
11	黒田重太郎	浴後	1927	10	〃	盛上磁葡萄唐草壺	1943
12	小堀 進	南欧の丘	1962	11	〃	彩地盛連葉文壺	1955頃

「新収蔵作品」

「新収蔵作品」では、平成7年度に新たに収蔵した日本画、洋画、工芸、書、版画の作品を紹介した。

会期 平成8年4月2日(火)～5月12日(日) 36日間
 展示点数 68点
 入場者数 13,403人

〈日本画〉

1 浅井 忠	風景	1902~07
2 石井 林響	白閑鳥	1924~25
3 小野 具定	記憶の風景(夜)	1994
4 富取 風堂	雛妓納涼図	1926
5 松岡 映丘	後少将義孝	

〈書〉

1 石井 雙石	久遠寺印	1965
2 大野 虚舟	阿吽	1985
3 タ	子供の情景—記号探しのパズル	タ
4 タ	天靈地氣一騰	1992
5 小暮 青風	天地茫々	1993
7 タ	春野尔	タ
8 タ	命(法句経)	1994

〈洋画〉

1 浅井 忠	本と花	1889
2 伊原宇三郎	曇り日の丘	
3 大野 隆徳	裸婦	1933
4 岡田三郎助	デッサン(裸婦)	
5 椿 貞雄	垣根のある風景	1919
6 タ	牡丹	1920
7 タ	夏之路傍	1921
8 服部正一郎	海鹿島山	1957
9 原 勝郎	横向きの夫人像	1948
10 タ	樹	1955
11 タ	山	タ
12 タ	窓と静物	
13 タ	烟	

〈版画〉

1 浜口 陽三	レダ	1951
2 タ	白菜	1960
3 増田 陽一	森の生活	1993
4 タ	植物の窓	1994
5 タ	すみれ色の謎	1995

〈工芸〉

1 青木 滋芳	洞門	1965
2 タ	寂	1970
3 香取 秀真	龍	1937
4 タ	瑞鳥飾三足鑪	
5 タ	盃	
6 香取 正彦	卓鈴	1971頃
7 タ	末広花人	
8 タ	花器	
9 タ	臘銀花瓶	
10 高村 豊周	香炉	
11 津田 信夫	兎	1939
12 タ	竜	1940
13 タ	水牛	
14 土肥 刀泉	銅彩牡丹文扁壺	
15 根箭 忠緑	牛	

〈資料〉

1 石井 雙石	雕蟲	1911~50頃
2 タ	石井雙石関係アルバム	1955~64
3 タ	雙石詩稿	
4 タ	六書通索引	
5 タ	詩索(下)	
6 タ	書品索引	
7 タ	古文未詳誌	
8 タ	部首	
9 タ	印影カード	
10 タ	石井雙石旧蔵スクラップ	
11 タ	石井雙石スケッチブック	
12 津田 信夫	津田信夫旧蔵写真アルバム	1923~25
13 山室 百世	山室百世作品下図スケッチブック	1933~65
14 タ	山室百世旧蔵石膏	
15 タ	山室百世旧蔵エジプト風彫刻模造	
16 タ	山室百世旧蔵模写帖	

常設収蔵作品展

「津田信夫」

「津田信夫」では、日本の伝統的な工芸から出発し、ヨーロッパの新思潮により芸術性豊かな独自の作品を生み出し、常に日本の近代工芸界のリーダーとして活躍した鋳金家・津田信夫の作品を紹介した。

会期 平成8年4月2日(火)～5月12日(日) 36日間
展示点数 31点
入場者数 13,403人

1	花瓶	1918	17	荒鷺	1942
2	煙草入	1926頃	18	唐獅子置物	1946
3	海	1927	19	月下妖麗	
4	ラジエーターの装飾	1929	20	玉鱗焜爐	
5	変貌七色	1933	21	水盤	
6	一點玲瓏	1934	22	花瓶	
7	少師好生	〃	23	犬	
8	胡孫遊目	1935	24	老子	
9	鴨	1936	25	兎	
10	鋳銅水盤	1937	26	鹿	
11	鳳翔薰炉	〃	27	天燈鬼像	
12	子迷家鴨	1938	28	竜燈鬼像	
13	白鳥	1940	29	落花有意	1934
14	閑鱗上下	1941	30	一醉千日	1935
15	蜻蛉耳花生	1941~43	31	二股	
16	鯰	〃	※No.13, 15, 16は陶芸, 29~31は書		

「美術に表現された動物」

「美術に表現された動物」では、日本画、洋画、彫刻、工芸、版画の各分野で動物をモチーフとした作品を紹介した。

会期 平成8年6月29日（土）～8月25日（日） 50日間
 展示点数 56点
 入場者数 24,302人

〈日本画〉

1 浅井 忠	虎団	1902~07	15 深沢 幸雄	兎	1956
2 ツ	羊の団	1907	16 トロワイヨン	河辺の道	1860~65
3 石井 林響	老松白鷺之図				
4 ツ	松に鶴				
5 岩崎 巴人	闘う牛	1969	1 浅井 忠	ライオンの像	1906
6 島多 訥郎	群魚と波動	1975	2 浦野八重子	生きるということ	1987
7 杉原 元人	寂巖	1987	3 鈴木 章	七面鳥	1932
8 立石 春美	狗	1967	4 鈴木 徹	馬と娘の恋物語(3部作-秋・冬・早春-)	1984
9 田中 路人	豊漁	1982	5 高村光大郎	猪	1905頃
10 時田 直善	魚紋	1981	6 ツ	野兎の首	1945~52
11 富取 風堂	廐舎	1938			
12 ツ	夕	1960			
13 松尾 敏男	原野	1971	1 会田 富康	青銅双鳥置物	
14 吉岡 堅二	馬	1937	2 大須賀 喬	昆蟲文飾皿	1986
15 若木 山	早春	1969	3 川上祥三郎	黄釉鳥紋大花器	1975
16 渡辺 学	夜	1968	4 佐治 賢使	苑	

〈洋画〉

1 瓦 嘘	INSECTS	1975	7 津田 信夫	月下妖麗	1953
2 ツ	BIRDS	ツ	8 堀口 光彦	安眠装置	1986
3 浅井 忠	鶯鳥の図		9 二口志保子	翔ける	1964
4 ツ	犬と人力車	1905	10 山室 百世	鋳銀小鳥のささやき	1943
5 安藤 信哉	牧歌	1960			
6 板倉 鼎	金魚と雲	1928			
7 瑛 九	鳥	1956	1 �瑛 九	銅版画集2『林の目』より みみづく	1953
8 櫻田 精一	追憶	1974	2 ツ	銅版画集3『雲の花』より ボエム	ツ
9 佐善 明	New York Letter	1984	3 関 主税	「信濃路春秋」より 春風安曇	1982
10 須田国太郎	デッサン(走鳥)	1953	4 浜口 陽三	青い蝶	ツ
11 鶴田 吾郎	蒙古の女	1937	5 ツ	青い蝶(7枚組)	ツ
12 ツ	朝日連峰	1951~54	6 深沢 幸雄	銅版画集『トロード詩集悪の華け』樂しき死者	1971
13 鳩川 誠一	野の花	1955	7 柳原 義達	「銅版画三葉集」より 鳩A	1977
14 羽生 智樹	動く気配の鳥	1981	8 ツ	「銅版画三葉集」より 鳩B	ツ

常設収蔵作品展

「椿貞雄と県展の人々」

「椿貞雄と県展の人々」では、千葉県美術会創立の運営委員として活躍し、本県美術界のリーダーとして美術振興に多大な影響を及ぼした洋画家・椿貞雄の作品と、県展の創設期に活躍した作家の中から、洋画と彫刻の作品を紹介した。

会 期 平成8年7月6日（土）～8月25日（日） 44日間

展示点数 39点

入場者数 21,138人

〈洋 画〉

1	椿 貞雄	垣根のある風景	1919	22	笛岡 了一	山西	1984
2	〃	夏之路傍	1921	23	菅谷元三郎	沼風景	1935
3	〃	黒壺に椿一輪	1948	24	〃	母の像	
4	〃	犬吠埼	〃	25	内藤 隆	緑衣の婦人像	1961
5	〃	秋果図	1951	26	行木 正義	コンポジションB	1952
6	〃	鴨図	1955頃	27	峯岸 義一	光の中の馬	1967
7	浅井 真	裏磐梯	1955～56	28	無縁寺心澄	医大尖煙突	
8	〃	山百合	1960～61	29	〃	旧県庁と噴水	
9	〃	唐松林	1963	30	森 桂一	ランス大聖堂	1959
10	安藤 信哉	花束	1970	31	〃	室内	
11	〃	蓮	1977	32	山谷 錠一	風	1948
12	〃	みなと		33	山本不二夫	ハイデルベルグ風景	
13	石橋 武治	筑波遠望	1953				
14	〃	砂山	1966				
15	〃	水辺初夏		1	荒居 徳亮	女性マスク	1946頃
16	〃	水郷		2	安西 順一	秋晴	1948
17	遠藤 健郎	朝市	1975	3	大川 逞一	聖観音	1967
18	国松 伽耶	港		4	大須賀 力	もたれる	1957
19	櫻田 精一	冬の並木道	1965	5	長谷川 昂	安息	1966
20	〃	白い舟	1985	6	藤野 天光	希望	
21	笛岡 了一	放蕩息子の帰宅	1960				

〈彫 刻〉

1	荒居 徳亮	女性マスク	1946頃
2	安西 順一	秋晴	1948
3	大川 逞一	聖観音	1967
4	大須賀 力	もたれる	1957
5	長谷川 昂	安息	
6	藤野 天光	希望	

「房総の工芸」

「房総の工芸」では、房総ゆかりの工芸作家の作品や、房総にかかわりのある工芸作品を紹介した。

会期 平成8年11月9日（土）～平成9年1月19日（日） 53日間
 展示点数 45点
 入場者数 38,933人

〈陶芸〉

1	神谷 紀雄	鉄絵銅彩椿紋壺	1987
2	河村 蜂山	長方皿 雨・風・晴	
3	土肥 刀泉	釉彩両耳花瓶	1967
4	土肥 紅繪	小袖隨想	1992
5	土肥 満	蹲踞	1993
6	三橋 英作	象嵌花器（展）	1984
7	宮之原 謙	象嵌十字星結晶花挿	1932
8	〃	盛上磁連星壺	1933
9	山本 正年	黎明	1953
10	横山 朝陽	牡丹紋搔落壺	
11	横山光ノ介	戦碑	1976

〈金工〉

1	会田 富康	蓋のある青銅壺	1965
2	〃	青銅双鳥置物	
3	香取 秀真	鳥銅鳳凰香炉	1912
4	〃	千本松文釜	1934頃
5	〃	笑獅子香炉	
6	香取 正彦	臘銀玉錯花瓶	1973
7	〃	金銅童形聖徳太子像	1969
8	小林 正利	祈り（啓蟄）	1975
9	鈴木 治平	湿原の詩	1985
10	津田 信夫	一點玲瓏	1934
11	〃	鋳銅水盤	1937
12	〃	北辺夜猫子	1941
13	信田 洋	透壺	1968
14	〃	夕映の甲斐の山々	1987
15	堀口 光彦	日曜日の雨	1977

〈染織〉

1	青木 滋芳	洞門	1965
2	〃	染色笠森寺	1969
3	上野 純郎	莓畠	1930
4	〃	収穫	
5	深沢 範子	今日も明日も	1983
6	〃	シニヨリーア回廊	1990
7	二口志保子	緑の頃	1961
8	〃	水面	1967

〈漆芸〉

1	佐治 賢使	苑	
2	佐藤 陽雲	木彫彩漆香盒	
3	武田 武弘	ランボーの詩より「朝」	1975
4	増村 益城	乾漆波文溜塗盛器	1965
5	三村比呂志	想曲	1971

〈木工〉

1	秋山 逸生	蝶貝象嵌箱	1966
2	〃	木画箱	1969
3	中臺 瑞真	桐経箱	1992
4	〃	十六弁菱形盤	

〈ガラス工芸〉

1	藤田 喬平	飾簪朱雀	1978
2	〃	飾簪・しだれ櫻	1985

常設収蔵作品展

「冬の風景」

「冬の風景」では、冬の風景や風物を描いた日本画、洋画、版画の作品を紹介した。

会期 平成8年11月23日（土）～平成9年1月19日（日） 41日間

展示点数 24点

入場者数 33,891人

〈日本画〉

1 石井 林響	冬景色		9 鶴田 吾郎	鷹の巣の雪山	1954
2 大田 歳	北海	1979	10 ツ	山神	1967
3 酒井 亜人	冬	1937	11 中林 傑	冬の風景	1935頃
4 田岡 春径	幽	1969	12 鳩川 誠一	雪の庭	1923

〈洋 画〉

1 浅井 真	雪の丘	1947
2 ツ	雪景	1943~44
3 ツ	雪と石	1964
4 石井 柏亭	冬の朝（行徳）	1909
5 岸田 劉生	霽れたる冬之日	1917
6 小堀 進	冬晴の果樹園	1936
7 近藤南海子	グレーの冬	1992
8 三田 康	冬の犬吠岬	

〈版 画〉

1 東山 魁夷	リトグラフィ集「冬の詩」より 枯野	1979
2 ツ	リトグラフィ集「冬の詩」より 冬樹	ツ
3 ツ	リトグラフィ集「冬の詩」より 湖岸	ツ
4 ツ	リトグラフィ集「冬の詩」より 冬華	ツ
5 ツ	リトグラフィ集「冬の詩」より 樹氷	ツ
6 星 襄一	雪の中で（K）	1960
7 ツ	雪の玉A	1964

「彫刻」

「彫刻」では、木やブロンズなど、様々な素材や技法によって表現された彫刻作品を紹介した。

会期 平成9年1月5日（日）～4月13日（日） 85日間

展示点数 38点

入場者数 42,201人

1	青木三四郎	憩い	1984	20	零駒 無藏	集う人々の列に……	1991
2	大須賀 力	椅子の女	1975	21	高田 大	リラックス	1984
3	ク	浅井忠像	1978	22	高田 博厚	ロマン・ロラン	1961
4	笠原 鉄明	帰る日	1993	23	高村光太郎	薄命児男子頭部	1905
5	金田 雄作	"Bed Room" N氏邸見取図より	1984	24	田中 穀	草枕の旅	1993
6	菊池 一雄	手を挙げる	1977	25	中岡慎太郎	"FANTASY"	ク
7	木村賢太郎	立像	1956	26	中島 幹夫	風の肖像	1975
8	ク	うごめくトルソーII	1974	27	長谷川 昂	朝	1979
9	ク	うごめくトルソーVI	1975	28	原 武典	水の中の太陽 ('81)	1981
10	ク	海	1980	29	藤野 天光	銃後工場の護り	1938
11	工藤 健	愁いのマンドーラ	1991	30	ク	ああ青春	1962
12	久保田淑通	さりげなく	1985	31	堀 豊之	姉妹	1984
13	郡司 和男	詩人の肖像	1976	32	松本 雄治	大母神、天を翔ける	ク
14	ク	天使	1978	33	六崎 敏光	香風	ク
15	酒井 良	時を刻む	1985	34	柳原 義達	風の中の鴉	ク
16	佐藤 忠良	ラップ帽	1982	35	山崎 英五	地を這うものども XIV	1981
17	島田 勝吾	少女と鳥	1981~82	36	山崎 猛	木馬の詩	1984
18	鈴木 徹	帰雲・春	1978	37	米林 雄一	Circle and triangle	1983
19	零駒 無藏	過ぎし日のアパート	1989	38	ブルデル	聖母子	1921

常設収蔵作品展

「浅井忠」

「浅井忠」では、近代洋画の先駆者として大きな足跡を残した浅井忠の作品と資料と、浅井に多大な影響を与えたバルビゾン派の作家の作品を紹介した。

会期 平成9年3月1日（土）～3月23日（日） 20日間
展示点数 70点
入場者数 9,388人

〈日本画〉				30	浅井 忠	欧洲市場風俗	1903頃
1	浅井 忠	狂女（付子規句）	1898	31	タ	東宮御所壁飾草稿（1）	1905
2	タ	古城（付子規句）	1898頃	32	タ	東宮御所壁飾草稿（2）	タ
3	タ	貼交屏風	1907	33	タ	老母像	1906
4	タ	人物風俗図	タ	34	クールベ	雪の中の小鹿	1869頃
5	タ	農耕の図	タ	35	コロ一	ファンテンブローの風景	1830~35
6	タ	琵琶法師	タ	36	タ	ナポリ近郊の思い出	1860~65
7	タ	種まきの図	1902~07	37	ジヤック	森の中	1871
8	タ	もろこしと鳳仙花	1904~07	38	デュプレ	森のはずれ	1860年代
				39	タ	嵐の前	
				40	ディアズ	森の中の農婦	1868
〈洋画〉				41	トロワイヨン	河辺の道	1860~65頃
1	浅井 忠	少女	1877	42	ドービニー	ヴァルモンドワの小川	1844
2	タ	印旛沼	1878頃	43	フォンタネージ	十月、牧場の夕べ	1860
3	タ	鍛冶橋	タ	44	タ	牛を追う農婦	1862頃
4	タ	風景	タ	45	タ	水汲み場風景	1863頃
5	タ	女の顔（模写）	1876~78	46	タ	川辺の二頭の牛	1865頃
6	タ	沢入駅	1884	47	タ	森の空地の農婦	タ
7	タ	渓流	タ	48	タ	木立	1870頃
8	タ	曳舟通り	1885	49	タ	池と樹木	1870~72頃
9	タ	房州白浜	1887	50	ミレー	垣根に沿って草を食む羊	1860~61
10	タ	藁屋根	1887頃	51	ラヴィエ	たそがれ	1885
11	タ	房州波太村	1888	52	タ	モレステル風景	1867~95
12	タ	房州乙浜村	タ	53	タ	モレステル風景（沼）	タ
13	タ	本と花	1889	54	ルソ一	バルビゾンの農場	1850~55頃
16	タ	小丹波村	1893				
17	タ	平壤大同江煉光亭	1894				
18	タ	金州城南門外	1894~95				
19	タ	貔子窩第二軍司令部	タ	1	浅井 忠	絵皿（鳳凰）	1901
20	タ	金州城壁上	タ	2	タ	茶器「猿蟹合戦之図」	1902~07
21	タ	漁婦	1897	3	タ	向付皿	タ
22	タ	母の肖像	1899	4	タ	桔梗文花瓶	タ
23	タ	ファンテンブローの森	1901	5	タ	草花盆	タ
24	タ	ファンテンブローの夕景	1901頃				
25	タ	農婦	1902				
27	タ	農家	タ	1	浅井 忠	従征画稿	1895
26	タ	パリ公園	1900~02	2	タ	月瀬紀行・薰世界	1905
28	タ	奈良郊外	1903	3	タ	吉野紀行・錦世界	1908
29	タ	京都高等工芸学校の庭	タ	4	タ	絵葉書	

アルフォンス・ミュシャ「生涯と芸術」展

会期 平成8年5月18日（土）～
6月23日（日）
32日間
展示点数 308点
(ミュシャ252点、浅井忠56点)
入場者数 16,346人

アルフォンス・ミュシャは、アール・ヌーヴォーを代表する作家として、今まで多くの人々を魅了し続け、日本に紹介された明治期には、美術・文学界に多大な影響を与えた。

本展では、〈アール・ヌーヴォーの華〉といわれたパリ時代の代表的なポスターや装飾パネルを始めとし、これまで日本であまり紹介されることのなかった初期の習作、アメリカ時代・チェコ時代の作品、晩年に心血を注いだ「スラヴ叙事詩」により構成して、油彩、テンペラ、水彩、パステル、素描、装飾工芸品、書籍などを一堂に展示了。

また、留学先のフランスでミュシャの影響を受け、帰国後独自の図案を展開した浅井忠の作品も、収蔵品の中から特別展示した。

I. パリ時代（1888～1904）

1. 絵画とデッサン

1 自画像	1888
2 幻影	✓
3 女の頭部	
4 母と子（《聖母》のための習作）	1891
5 ポエジー	1894
6 ドラゴン	1896
7 瞠想	✓
8 少女の習作①	1897
9 少女の習作②	✓
10 象徴的構図の習作	1926
11 夜明けへの期待	1899
12 立像	1900以前
13 胸に手をおく男	1900前後
14 肘掛け椅子に座る少女	✓
15 泣く少女	✓
16 赤いコート	1902
17 イヴァンチツェの思い出（習作）	1900以降
18 ウミロフ・ミラー	1903頃
19 クオ・ヴァディス	1904
20 クオ・ヴァディス（習作）	1902
21 百合の中の聖母	1904

22 百合の中の聖母（習作） 1903

23 百合の中の聖母（習作）—「腰をおろす少女」 1904

2. ポスター

(a) サラ・ベルナールとルネサンス劇場	1895
24 ジスモンダ	1895
25 椿姫	1896
26 サマリアの女	1897
27 メディア	1898
28 メディア（下絵）	1898頃
29 ハムレット	1899
30 ハムレット（下絵）	✓
31 トスカ	✓
32 ロレンザッティオ	1896
33 愛人たち	1895
(b) ラ・プリュムとサロン・デ・サン	
34 「サラ・ベルナール」	1896
35 サロン・デ・サン第20回展	✓
(c) 鉄道・煙草・酒類・雑誌など	
36 ピレネーの女王リュシヨン（オルレアン・エ・ミディ鉄道）	1895
37 ピレネーの女王リュシヨン（下絵）	1895
38 モナコーモンテカルロ（P.L.M鉄道）	1897
39 モナコーモンテカルロ（下絵）	✓
40 煙草用巻紙（ジョップ社）（大）	1898



特 別 展

41 リュイナール・シャンパン	1897	87 四つの星—「明けの明星」〈下絵〉	1902
42 ムーズ川のビール	タ	88 四つの星—「北極星」〈下絵〉	タ
43 トラピスティーヌ酒	タ	89 四つの星—「宵の明星」〈下絵〉	タ
44 トラピスティーヌ酒 〈下絵〉	タ	90 四つの星—「月」〈下絵〉	タ
45 ドライ・アンペリアル(モエ・エ・シャンドン社)	1899		
46 シャンパン・ホワートスター(モエ・エ・シャンドン社)	タ		
47 ウェイヴァリー自転車	1897		
48 「夢想」(シャンプノワ印刷所・出版社)	タ		
49 カサン・フイス印刷所	タ		
50 民衆美術協会	タ		
51 民衆美術協会 〈下絵〉	タ		
52 『オ・カルチエ・ラタン誌』	タ		
53 アカデミー・コラロッシのミュシャ教室	1900		
54 ヴィシュコフでの商業・工業・民俗展	1902		
55 ホジツエでの北東ボヘミア商業・工業・民俗展	1903		
3. 装飾パネル			
56 通り過ぎる風が若さを奪い取る	1899		
57 「遠国の姫君」に扮するサラ・ベルナール(トマス・エイド・ヘンリイ社の広告)	1904		
58 「遠国の姫君」に扮するサラ・ベルナール 〈下絵〉	1903		
59 ビザンティン風の頭部：ブルネット	1897		
60 ビザンティン風の頭部：ブロンド	タ		
61 果物	タ		
62 花	タ		
63 夜明け	1899		
64 黄昏	タ		
65 岸壁のエリカの花	1902		
66 砂浜のあざみ	タ		
67 四芸術—「詩」	1898		
68 四芸術—「ダンス」	タ		
69 四芸術—「絵画」	タ		
70 四芸術—「音楽」	タ		
71 四つの花—「カーネーション」	タ		
72 四つの花—「薔薇」	タ		
73 四つの花—「百合」	タ		
74 四つの花—「アイリス」	タ		
75 一日の四つの時—「朝の目覚め」	1899		
76 一日の四つの時—「昼の輝き」	タ		
77 一日の四つの時—「夕べの夢想」	タ		
78 一日の四つの時—「夜の安らぎ」	タ		
79 四つの宝石—「アメジスト」	1900		
80 四つの宝石—「エメラルド」	タ		
81 四つの宝石—「トーパーズ」	タ		
82 四つの宝石—「ルビー」	タ		
83 四つの星—「明けの明星」	1902		
84 四つの星—「北極星」	タ		
85 四つの星—「宵の明星」	タ		
86 四つの星—「月」	タ		
4. カレンダー、メニュー、切手などのデザイン			
91 黄道十二宮			1896
92 ショコラ Jbled の 1894 年カレンダー 〈下絵〉			1893
93 ショコラ・マッソ/ショコラ・メリカンの 1897 年カレンダー(4 枚組)			1896
94 ショコラ・マッソ/ショコラ・メリカンの 1898 年カレンダー(4 枚組)			1897
95 「来たる年」のカレンダー			タ
96 「来たる年」のカレンダー 〈下絵〉			タ
97 四季			タ
98 モエ・エ・シャンドン社のメニュー			1899
99 12カ月のメニュー			1900
100 パリ万国博覧会公式晩餐会のメニュー 〈下絵〉			タ
101 チェコスロバキアの切手 (12 点)			1898
5. 本・雑誌の装丁と挿絵			
102 『ファウスト』の挿絵 〈習作〉			1888
103 ポール・ヴェローラ著『ラーマ』			1898
104 ユディット・ゴーティエ著『白い象の伝説』			1894
105 『白い象の伝説』の挿絵(習作)(小) ※11点			1893
116 『白い象の伝説』の挿絵(習作)(大) ※6点			タ
122 ジャック・セヨ著『19世紀歴史の諸場面とエピソード』の挿絵(習作)①			1895
123 ジャック・セヨ著『19世紀歴史の諸場面とエピソード』の挿絵(習作)②			1895以前
124 アナトール・フランス著『クリオ』			1900
125 エミール・ジェバール著『クリスマスと復活祭を告げる鐘』			タ
126 ロベール・ド・フレール著『トリボリの姫君イルゼ』			1897
127 『主の祈り』			1899
128 『主の祈り』の挿絵			タ
129 『レストラン・モデルヌ』誌の挿絵「サロメ」			1897
130 『20世紀』誌の表紙 〈下絵〉			1902
6. 『装飾資料集』と『装飾人物集』			
131 『装飾資料集』			1902
132 『装飾資料集』〈原画〉①			1901
133 『装飾資料集』〈原画〉②			1902
134 『装飾資料集』の図12 〈習作〉①			
135 『装飾資料集』の図12 〈習作〉②			
136 『装飾資料集』の図34 〈習作〉			
137 『装飾資料集』の図49 〈習作〉			
138 『装飾資料集』の図60 〈習作〉			
139 『装飾資料集』の図67 〈習作〉			
140 『装飾資料集』の図69 〈習作〉			
141 『装飾人物集』			1905
142 『装飾人物集』の図14 〈習作〉			
143 『装飾人物集』の図22 〈習作〉			

144	『装飾人物集』の図26 〈習作〉		182	宿命	1920
145	『装飾人物集』の図28 〈習作〉		183	異教徒の彫像を持つ少女	1921
7. 彫刻・工芸品とそのデザイン					
146	岩に座る裸婦	1898	184	巫女	1926
147	少女の頭部	1900	185	女性像（スラヴ民俗連帶のアレゴリー）	
148	ビザンティン風の頭部：ブロンドとブルネット ※2枚組	1900年代初頭	186	脅威 〈習作〉	1912
149	ラ・ナチュール	1900	187	少女	
150	絵画	〃	188	大きな鉢をかかえた女性	
151	飾り皿（ブルネットの頭部）	1897頃	189	流浪の人	
152	飾り皿（パリの寓意像）	1900	190	ロシア正教の僧 〈習作〉	1924頃
153	飾り皿（つた）	1902頃	191	プラハ大学を創立するカレル4世	1928
154	飾り皿（月桂樹）	〃	192	希望の光	1933
155	蓋と把手付き金属製容器（ルフェーヴル＝ユティル社のビスケット）	1899	193	眠れる大地の春の目覚め	〃
156	陶磁器とガラス器のデザイン	1900頃	194	乳を飲ませる女	1930
157	鏡と小彫刻付きのサイドボードのデザイン（フーケ宝飾店）	1900	195	腰掛ける裸婦	〃
158	暖炉、鏡、天井のインテリア・デザイン（フーケ宝飾店）	〃	196	民俗衣装を着た少女と手 〈習作〉	〃
159	手織りタペストリー（1900年～万国博覧会おりのザイ）に基づく	1963	197	民俗衣装を着た少女	〃
160	手織りタペストリー（1900年～万国博覧会おりのザイ）（下絵）	1900			
161	フストペチュの信託会社の社章 〈下絵〉	1906			
II. アメリカ時代（1905～1910）					
1. ポスター					
162	レスリーカーター	1908	198	『ヒヤシンス姫』	1911
163	『ジャンヌ・ダルク』に扮するモード・アダムズ 〈下絵〉	1909	199	モラヴィア合唱団	〃
164	「幸福なるかな、柔軟なる者…」（真福八端） 〈習作〉	1906	200	チェロ奏者ズデンカ・チェルナー	1913
165	あごに手を置く少女（装飾パネルのモデル）	1905頃	201	ヴェンツエラ地方展示会（モガイ地方の衣装を着た少女）	1911
2. 演劇関係の下絵					
166	喜劇（ドイツ劇場の装飾） 〈下絵〉	1908	202	ヴェンツエラ地方展示会（モガイ地方の衣装を着た少女）（下絵）①	1904頃
167	悲劇（ドイツ劇場の装飾） 〈下絵〉	〃	203	ヴェンツエラ地方展示会（モガイ地方の衣装を着た少女）（下絵）②	〃
168	美の誕生（ドイツ劇場の装飾） 〈下絵〉	〃	204	第6回ソコル祭	1912
169	ハーモニー	〃	205	第8回ソコル祭	1925
170	ハーモニー 〈習作〉	〃	206	南西モラヴィア拳国一致宝くじ	1912
171	演劇芸術のアレゴリー	〃	207	チェコスロヴァキアY.W.C.A	1922
III. チェコ時代（1910～1939）					
1. 絵画とデッサン					
172	ミュシャの二人の子供の肖像	1919	208	チャコスロヴァキアY.W.C.A 〈下絵〉	〃
173	息子ジリ（イージー）の肖像	1925	209	ロシア復興	〃
174	母子		210	チェコスロヴァキア共和国独立10周年記念	1928
175	ターバンを巻いた少女	1920	211	「スラヴ叙事詩」展	〃
176	菊を頭につけた少女とりんご	〃	3. プラハ市民会館市長ホールの天井画と壁画		
177	白いカチーフを被った少女	〃	212	スラヴの連帶	1911
178	目を閉じた少女	1920頃	213	自由の夢想	〃
179	少女の肖像（ルバーシュカを着たペトリコヴィチヨヴァー）		214	征服されたプラハ	〃
180	星	1923	215	自力I—犠牲と勇気	〃
181	女占い師	1917	216	自力II—犠牲と勇気	〃
			217	自力III	〃
			218	闘う魂—ヤン・ジシカ	〃
			219	英知—プジエミスロフ朝のエリシュカ	〃
			220	堅固—ドゥベのロハーチ	〃
			221	警護—ホツツの人々	〃
			222	独立—イージー・ズ・ポジエブラディ	〃
			223	創造力—ヤン・ズ・ペルンシュティーン	〃
			224	正義—教父ヤン・フス	〃
			225	忠誠—ヤン・アモス・コメンスキー	〃

特別展

4. ステンドグラス、記念シート、蔵書票、紙幣など				
226	プラハ、聖ヴィタ大聖堂のステンドグラス下絵(左側上から2番目)	1931頃	12	大津絵皿 1902~07
227	プラハ、聖ヴィタ大聖堂のステンドグラス下絵(左側上から3番目)	ク	13	春日野花瓶 ク 1902~07
228	プラハ、聖ヴィタ大聖堂のステンドグラス下絵(右側一番上)	ク	14	夕顔の図 ク
229	ルージチカ・アポロの蔵書票〈下絵〉	1918	15	三匹の蝶 ク
230	蔵書票〈下絵〉	1922	16	もろこしの図 ク
231	プラハ国民劇場の記念シート〈下絵〉	1934	17	画吉祥天 1903
232	チェコスロヴァキアの50コロナ紙幣		18	大原女 1902~07
233	チェコスロヴァキアの10コロナ紙幣	1919	19	柿の実取り ク
234	チェコスロヴァキアの100コロナ紙幣(両面)※2枚	ク	20	渓流 ク
235	チェコスロヴァキアの50コロナ紙幣〈下絵〉①		21	風俗図 ク
236	チェコスロヴァキアの50コロナ紙幣〈下絵〉②		22	二人傘 ク
5. スラヴ叙事詩			23	モロコシの図 ク
237	聖アトス山	1926	24	菊花 ク
238	聖アトス山〈習作〉		25	せんたくの女 ク
239	聖アトス山〈習作〉I	1925頃	26	橋 ク
240	聖アトス山〈習作〉II	ク	27	白樺 ク
241	聖アトス山〈習作〉III	ク	28	鷲鳥の図 ク
242	聖アトス山〈習作〉IV	ク	29	にわとり ク
243	大モラヴィア王国のスラヴ式典礼の導入(習作)	1912	30	ダチョウ図 ク
244	イヴァンチツェでのクラリツェ聖書の印刷(習作)	1914頃	31	オットセイの図 1902~07
245	トルコの総督ミケーレ・シエピッチャンキーによるシケトの攻防(習作)	ク	32	魚の図 ク
246	ロシアにおける農奴制廃止(習作)	1914	浅井忠の図案による工芸作品	
247	クジージュキでの集会(習作)	1916頃	1	絵皿(鳳凰) 1901
248	ベッレム教会で説教するフス(習作)	1916	2	花瓶 1902~07
249	グリュンヴァルトの戦いが終わって(習作)	1924頃	3	茶器 ク
250	フス教徒の王イーゼー・ズ・ボジェブラディ(習作)	1925	4	向付皿 ク
251	ブルガリアのツァー、シオメン(習作)	1926	5	桔梗文花瓶 ク
IV. 参考出品			6	農家風俗手塩皿 ク
252	ヴィドホフ《ミュシャの肖像》	1899	滞欧時代の浅井忠自筆絵葉書	
特別展示「浅井忠の図案」			1	松に花 1901
浅井忠図案作品			2	菊花図 ク
1	木かげの女	1902~07	3	花木にロバ図 1902
2	女神図	ク	4	馬方 1900
3	本装丁	ク	5	仁王像 1901
4	花	ク	6	富くじ売り ク
5	花木	ク	7	牛車図 1902
6	花瓶図(魚)	ク	8	子もり ク
7	花瓶2種(植物)	ク	9	あんま図 ク
8	花瓶図(玉蜀黍と蜻蛉)	ク	10	赤壁に夜遊ぶの図 1901
9	戸棚図	ク	11	グレーの秋 ク
10	煙草入れ	ク	12	渡船 ク
11	鉢の図	ク	13	雪の林 ク
資料			資料	
1 黙語図案集			1	黙語図案集 1909
2 浅井忠図案集1~3			2	浅井忠図案集1~3
3 スケッチブック(6)			3	スケッチブック(6)

椿貞雄展

会期 平成8年8月31日(土)～
10月6日(日)
32日間
展示点数 173点
入場者数 4,241人

椿貞雄は、若くして岸田劉生に師事し、劉生の画風を踏襲しながらも、素朴なうちに温かな人間性をたたえた、彼の人柄そのものといえる独自の画風によって各方面から高い評価を得ている。

本展では、椿の生誕100年を記念して、山形美術館、平塚市美術館との共同企画により、椿の世界を初期から晩年までの油彩画、日本画、素描などの代表作ならびに資料によって顧みた。



〈油 彩〉

1 落日（代々木附近）	1914	30 村山政司の像	1925
2 自画像	1915	31 牡丹図	✓
3 弟茂雄像	✓	32 冬瓜図（支那籠）	✓
4 赤土の山	✓	33 鎌倉風景	1926
5 道	1915頃	34 蕉にくわい	✓
6 冬枯の道	1916	35 柿図	1926頃
7 腕鎖を持てる自画像	1917	36 朝子像	1927
8 少女像	1918	37 夏の風景	1928
9 雪国の少女	✓	38 春夏秋冬屏風（春 子女遊戯之図）	1929
10 八重子像（酸漿を持てる少女の肖像）	✓	39 春夏秋冬屏風（夏 夏祭行支度図）	✓
11 卓上静物	1920	40 春夏秋冬屏風（秋 糸巻之図）	✓
12 鶴沼の或る道	✓	41 春夏秋冬屏風（冬 御稽古図）	✓
13 牡丹図	✓	42 春夏秋冬屏風（春）	1931
14 鶴頭持てる村の婦	✓	43 婦人像（隆子像）	✓
15 鶴沼風景	1921	44 姉妹図	✓
16 横堀角次郎兄像	✓	45 髪すき図	✓
17 童女像（毛糸の肩掛けをした菊子）	✓	46 白菜図	1932
18 菊子座像	1922	47 アンドレ裸体	✓
19 菊子遊戯之図	✓	48 アンドレ（赤服）	✓
20 村娘図	✓	49 アンドレ（黒服）	✓
21 武者小路実篤像	✓	50 アンドレ（黄服）	✓
22 菊子立像	✓	51 トレド風景	✓
23 洋装せる菊子立像	✓	52 印旛沼初冬	1933
24 画家自像	✓	53 房州鶴原理想郷風景	1934
25 牡丹図	1923	54 夏蜜柑（染付角鉢）	1934~35
26 菊花図	✓	55 舞妓図	1934~36
27 童子像	1924	56 牡丹図	1935頃
28 果物	✓	57 みのり	1936
29 晴れたる冬の道	1925	58 富士山	1936~37
		59 岩	1936~39

特別展

60 母像	1937	108 染付大鉢に夏蜜柑	1954
61 支那陶器と秋果図	〃	109 赤絵大鉢(果物)	〃
62 富士山(河口湖)	1937~51	110 彩子立像	〃
63 晴子像	1938	111 富士山(二の宮)	〃
64 朝子像	〃	112 富士山(精進湖)	〃
65 晴子像	〃	113 外川風景	1954~55
66 晴子像	〃	114 木守り	1955
67 渓流(大平風景)	1940	115 長崎港(月)	〃
68 赤富士	〃	116 夏蜜柑(竹筒に椿花のある)	〃
69 冬瓜茄子図	1942	117 祖母と孫	1955頃
70 婦人像	1942~44	118 孫二人	1956
71 晴子像	1943	119 山(桜島)	〃
72 果実(ゆず一個)	1943~44	120 静物	〃
73 白磁大壺に柘榴	〃	121 雉と夏蜜柑	〃
74 黒い壺に南天	1943~48	122 大浦天主堂	〃
75 睡蓮図	1944~46	123 泰山木	1956~57
76 庭の牡丹	〃	124 桜島	〃
77 諸果図	〃	125 泰山木花	〃
78 碓氷川風景	1945	126 童子立像(明比古立像)	1957
79 雪の妙義山	〃	127 大浦天主堂裏	〃
80 妙義山(夏山)	〃	128 椿花図(絶筆)	〃
81 磐部風景	1945頃	〈水彩素描〉	
82 西横野村秋景	1945~48	129 八重子	1918頃
83 冬瓜野菜	1946	130 『我等』挿画原画	1919
84 冬瓜南瓜図	1946~47	131 毛糸の肩掛けをした菊子	1922
85 冬瓜図	1947	132 朱明九歳像	1930
86 紫陽花図	〃	133 夏子五歳像	1944
87 房州海岸	1947頃	134 朝子桃割図	1952頃
88 村童図	1947	135 少女化粧図	1955頃
89 麦ふみ	1947~48	136 化粧図	1955
90 鋸山から見た房総半島	1948	137 夏子像	1933
91 椿花図	〃	138 黒猫図	1944
92 山芋図	〃	139 裸婦トルソ	1952頃
93 冬瓜図	〃	140 明比古像	1955
94 白磁壺と椿	1948~49	141 マー坊	1955頃
95 夜の自画像	1949頃	142 彩子(赤い帽子)	1955
96 牡丹花と唐の首	1950	〈墨 彩〉	
97 塩鮭(柚子のある)	1951	143 山茶花図	1925
98 塩鮭(切り身のある)	〃	144 村娘愛果図	1929
99 新山鉱泉より鳥海山遠望	1952	145 牡丹	1931
100 彩子(びりけんまげ)	〃	146 朝子(オランダ服)	1933
101 水蜜桃	〃	147 河豚図	1934
102 少女像(明子像)	1952頃	148 春夏秋冬極楽図	1936
103 老政治家の像	1953	149 瓜図	1945
104 水彩画家(渡辺義一君像)	〃	150 花鳥図	1947
105 静物	1953~54	151 箍図	1949
106 絵を描く彩子	1953~55		
107 グラバー邸	1954		

特 別 展

152 おこぜ	1950	5 第8回国展ポスター	1933
153 我不知此花名図	1956	6 装幀原画・下絵類	
154 百果図屏風	昭和期	7 自刻像	1918頃
155 秋草図	々	8 パリ通信	1932
156 釣人図	々	9 椿貞雄宛岸田劉生書簡	1915
157 パイナップルと柚子	々	10 椿貞雄宛武者小路実篤見舞状	1957
		11 椿貞雄宛友人書簡	
		12 園池公致筆椿貞雄画会推薦文	
〈資 料〉		13 椿貞雄画会清規	
1 第1回大調和展覧会ポスター (下図)	1927	14 椿貞雄個展等目録・案内状	
2 パリ個展肉筆ポスター	1932	15 椿貞雄装幀本	
3 椿貞雄滯仏小品展覧会肉筆ポスター	1933	16 第1回大調和展覧会ポスター	1927
4 第8回国展ポスター原画 (アンドレ)	々		

所蔵機関等

愛知県美術館	No. 76
大阪市立美術館	No. 21
大原美術館	No. 22
神奈川県立近代美術館	No. 30
株式会社奈良屋	No. 114
慶應義塾幼稚舎	No. 62
財団法人清川記念館	No. 145
財団法人大棟山美術博物館	No. 44
下関市立美術館	No. 20, ㉕, 120
大東京火災海上保険株式会社	No. 91, 94
多摩中央信用金庫	No. 88
千葉興業銀行	No. 87, 108, 109
千葉市美術館	No. 148
東京国立近代美術館	No. 6, 45, 119
豊橋市美術博物館	No. 32, 60
長崎県立美術博物館	No. 107, 122
西宮市大谷記念美術館	No. 24
平塚市美術館	No. 15, 18, 36, ㉐, ㉖, ㉗
福岡市美術館	No. 38~41
府中市	No. 65, 135
船橋市立船橋小学校	No. 68
宮城県美術館	No. 12, 48, 49, 79
山形大学附属博物館	No. 19
山形美術館	No. 1, 31, 51, 66, 133, 141, 154
米沢市	No. 28, 50, 56, 71, 75, 116, 127, 132
米沢市立上杉博物館	No. 134, 137, 144, 150, 155~157
米沢市立興譲小学校	No. 67, 95, 113
米沢市立東部小学校	No. 5
米澤信用金庫	No. 23
	No. 53, 102, 105, 147

※○で囲んだ番号は各機関への寄託作品。

企画展

—リアリズムの追求— 「第4回浅井忠記念賞展」

会期 平成9年1月25日(土)～
2月23日(日)
26日間
展示点数 83点
入場者数 18,889人

開館以来、近代日本洋画の先駆者で、リアリズムの追求を続けた本県出身の画家・浅井忠の画業を顕彰することにつとめてきた。この間、昭和58年度に開館10年記念事業として、浅井忠の精神を現代に生かし、また、現代の美術振興に寄与するため、公立美術館として初めての試みである全国公募による「浅井忠記念賞展」を開催し、多大な評価を得ることができた。

このたび、第4回展を開催することにより、現代における美術の一層の振興を図り、その動向を紹介する機会とした。

今回は、354点の作品が全国から寄せられ、審査の結果、大賞1点、優秀賞3点、入選79点が選ばれた。
審査員 浅野 徹、乾 由明、陰里鐵郎、加藤貞雄、○嘉門安雄、富山秀男、本間正義

(五十音順) ○は審査会長



〈大賞〉

1 若山 保夫 (千葉) まなざし・1944

〈優秀賞〉

2 館野 弘 (茨城) 僕たちの将来ー重い雲ー
3 山下 哲郎 (福岡) TRAVEL - 12
4 星加 達夫 (福岡) 影

〈入選〉

5 有森 正 (神奈川) 序曲
6 井草 裕明 (埼玉) 夢のアトリエにて(遺跡)
7 生田 裕人 (千葉) 眠る公園
8 池末 満 (福岡) 風の予感
9 池田 茂 (神奈川) TOKI (時)
10 泉 濚津子 (千葉) 旅芸人月明り
11 糸井 邦夫 (埼玉) 車窓
12 井上 信太 (京都) 現代博物誌J - 101
13 今井 明人 (福岡) Corps Mort - 96・XXVI
14 岩本かずえ (大阪) サクラ サクラ
15 大北 節子 (千葉) disappearance
16 大竹 英志 (福岡) TOKI 96-8
17 大田原晴良 (福岡) ハトのいる風景
18 大植 隆 (福岡) 風のない午後

19 大中 昇 (千葉) 蛭の橋
20 長内さゆみ (北海道) 秋の睡蓮
21 柿沼 直文 (茨城) 道跡絶えて
22 柿部 晋一 (東京) 白猫
23 景山 憲 (香川) 白い東京
24 笠原 葉子 (茨城) 廃船のコンポジション'96房総
25 金澤 隆二 (福岡) 忘れられた刻
26 神尾 裕 (静岡) Negata にて
27 口澤 弘 (千葉) 横利根閘門
28 香間 宏 (東京) 孤独の独立Ⅱ
29 栗崎 武成 (千葉) ガード下
30 吳本 俊松 (大阪) 神楽谷を行く
31 黒田 恵子 (福岡) Dream Time(希いを風に縫う)
32 肥沼 守 (神奈川) 衆 - 11
33 黄 憲 (東京) 黙示録 1996
34 古賀 正夫 (福岡) ショパン逃避行の地 (マジョルカ島の山村)
35 後藤 龍二 (大分) そこにある 9601
36 小林 一彦 (京都) ある日 ある刻
37 小保方 清 (千葉) 網と船
38 小山 佐敏 (埼玉) 生命都市シリーズ'95 -18
39 蔡 国華 (東京) 遊夢圖1996-III
40 斎藤 望 (千葉) Game
41 佐藤 勤 (東京) 聖母子変容

企画展

- | | |
|---|---------------------------------------|
| 42 佐藤 昌宏 (岐阜) 隧道の中で | 63 福地 敬法 (千葉) Gewalf -96-12 |
| 43 佐原 猛 (千葉) 春が来た | 64 福満正志郎 (〃) I'm here |
| 44 沢井 呉羽 (東京) 馬 | 65 藤田 真理 (神奈川) Computer ゲイシ・シリーズ「軋轢」 |
| 45 新保 甚平 (石川) 赤い水門 | 66 古川 勝紀 (埼玉) 初冬のある日-パパのつくった鳳とばないよ- |
| 46 須藤 初雄 (茨城) 狐火 | 67 細川 尚 (千葉) 蛭化宵宮 |
| 47 染谷 厚 (埼玉) 罷~失意の塔~ | 68 増田 宏人 (埼玉) CORNERING III |
| 48 高野考太郎 (〃) UZUKUMARU | 69 増田 泰子 (千葉) 回帰 |
| 49 武田 一城 (神奈川) 静謐な午後 | 70 松尾 文隆 (大阪) 妻が見た夢の話 |
| 50 多田 耕二 (千葉) 転車台 | 71 松木 義三 (東京) 応援するよ |
| 51 田中 圭一 (大阪) J-made-traffic information- | 72 三上 達也 (千葉) ソナタ・クロマティカ |
| 52 田中 正巳 (東京) 父と子の季節 | 73 三村 亘 (福岡) Working people 96-15 |
| 53 田沼 和夫 (千葉) TRANS | 74 望田 一美 (千葉) 浮生なる相 |
| 54 辻井 久子 (東京) 室内静物 | 75 守田 篤博 (東京) 黒い翼 |
| 55 椿野 浩二 (兵庫) メッセージ | 76 安原 竹夫 (埼玉) 比較風景シリーズ『みかづよ-eruption』 |
| 56 富田 徹 (新潟) 晩夏の浜小屋 | 77 安盛孝一郎 (神奈川) 月の色人 |
| 57 南城 泰正 (奈良) 記憶の断片 | 78 山田 勝廣 (〃) 花待人 |
| 58 西岡 民雄 (茨城) 少年時代〈探訪〉 | 79 山中 章寛 (滋賀) 森羅萬象一流ー(光の鉛筆と写実の融合) |
| 59 西 れい子 (千葉) いのち | 80 吉岡 真 (新潟) むし |
| 60 初田 隆 (兵庫) 月の光をふみてこそ入れ | 81 吉野 順夫 (千葉) ニホンヒキガエル |
| 61 濱田 尚吾 (茨城) 無抵抗 | 82 吉本 満雄 (大阪) 昔日暮色 |
| 62 福島 義通 (東京) 「我らの詩はどうした。」 | 83 輪違 宜和 (千葉) 96-留美ー夏の想い出 |

企画展

第20回千葉県移動美術館

会 場	1 白浜町フローラルホール 2 白井町郷土資料館
会 期	1 平成8年10月30日(水)～ 11月8日(金) 2 平成8年11月19日(火)～ 12月1日(日)
展示点数	1 37点 2 32点
入場者数	1 921人 2 1,277人

本館の収蔵作品を中心に、第48回千葉県美術展覧会（県展）の受賞作品を一部加えた移動展覧会を、上記の期間及び会場で開催し、美術作品を身近に鑑賞できる機会を提供した。



〈日本画〉

1 関 主税	滝	
2 富取 風堂	うすれ陽	1975
3 松尾 敏男	原野	1971
4 若木 山	安房ノ海廻女	1951
5 渡辺 学	川口	1976

〈洋 画〉

① 浅井 忠	漁婦	1897
2	小丹波村	1893
3 石井 柏亭	聖フランチエスコ寺院	1909
4 梅原龍三郎	伊豆大仁風景	1929
⑤ 大久保作次郎	丘上の鐘楼	1930頃
6 黒田重太郎	女と小犬	1928
⑦ 篠崎 輝夫	絵馬による	1976
⑧ 椿 貞雄	鋸山から見た房総半島	1948
9 石川欽一郎	赤城淡煙	
10 小堀 進	漁村	1937
11 富田 通雄	外房鶴原	1964頃
12 丸山 晚霞	初夏	明治末
13 三宅 克己	駿州三嶋在の緑陰	1947

〈彫 刻〉

1 高村光太郎	大倉喜八郎の首	1926
2 舟越 保武	婦人像	1985
3 山本 正道	ヴァージニア	1979
4 長谷川 昂	富樓那	1976
5 山崎 英五	地を這うものどもⅧ	1978

〈工 芸〉

1 津田 信夫	胡孫遊目	1935
2 香取 秀真	瑞鳥飾三足鑪	
3 秋山 逸生	菱華文象嵌長手箱	1946
4 宮之原 謙	象嵌磁鉢	1968
5 山本 正年	瑞光	

〈書〉

1 浅見 喜舟	檜櫻	1976頃
② 小暮 青風	修羅	1973
3 鈴木 方鶴	万昌	1973
④ 高澤 南総	墨縁	1979
5 小川 瓦木	了々	1988

〈版 画〉

① 浜口 陽三	さくらんぼと青い鉢	1976
2 深沢 幸雄	陸橋の上を歩く人	1984
3 星 襄一	王の樹	1976
④ 池田満寿夫	マーガレットの庭	1970
⑤ 永瀬 義郎	もの想う天使	1973

※番号に○のついた作品は白浜町のみ展示

浅井忠「小丹波村」は白井町のみ展示

第48回千葉県美術展覧会（県展）出品作品

1 谷野 可奈	夢想(日本画・県展賞)	1996
2 泉 湍津子	旅芸人(洋画・県展賞)	1996
3 井上 春柳	富士の山辺(書・県展賞)	1996

※県展出品作品は、白井町のみ展示

普 及 事 業

美術講演会を、展覧会に併せ2回開催した。

また、〈浅井忠の足跡と近代絵画の流れ〉をテーマに「教養講座とヨーロッパの旅」を実施し、この講座に関連してヨーロッパの旅を実施した。

さらに、特別展「椿貞雄展」会期中に、ミュージアムコンサート「弦楽四重奏による名曲の調べ」を開催した。

実技講座は、日本画、洋画、版画、彫刻（石彫）、陶芸、金工、書の7種7講座（延67日）を開催した。

図書は、99冊収集した。現在4,899冊を収蔵し、情報資料室において県民の利用に供している。

そのほか、友の会事業による実技講座4種11講座（延66日），美術鑑賞の旅等を始め、博物館実習生の受け入れ（12大学14人）などに協力した。

■ 美術講演会

美術に対する関心や理解を一層深めるため、特別展に併せて講演会を実施した。

1回目の「ミュシャの魅力」では、ミュシャの生涯の活動をはじめ、会場に展示してある作品を中心に、作品の内容等の独自性など、多彩な視点による講演が行われた。

2回目の「椿貞雄の画業について」では、画家としての椿の作品はもとより、椿に関する印象深いエピソードなどを交えた、広がりのある内容の講演が行われた。

また、各講師ともスライドを用いて講演された。

- 1 6月8日（土）「ミュシャの魅力」
島田 紀夫（実践女子大学文学部教授）192人
- 2 9月14日（土）「椿貞雄の画業について」
篠崎 輝夫（日展評議員・県美術会参事）218人
(数字は参加者数)

■ ミュージアムコンサート

特別展「椿貞雄展」の開催に併せ、「弦楽四重奏による名曲の調べ」と題して、9月21日、ニューフィルハーモニー オーケストラ 千葉のメンバーによるコンサートを行った。

バッハ（主よ人の望みの喜びよ）やモーツアルト（ディヴェルティメントニ長調）などのクラシックの名曲や、ビートルズ（イエスタデイ）などの現代のポピュラー曲を含む全16曲を演奏し、好評を得た。

〈演奏者・司会〉

本庄篤子・井口久美（ヴァイオリン）/河野みさ子（ヴィオラ）/伊藤耕司（チェロ）/中里かほり（司会）

■ 教養講座とヨーロッパの旅

千葉県立美術館では、昭和49年の開館以来、千葉県ゆかりの日本近代洋画の先駆者である浅井忠を中心とした作品の収集と活動を行ってきた。浅井忠は、バルビゾン派の流れをくむイタリア人画家・フォンタネージから本格的な洋画を学んだ後、渡欧し新たな画風の展開を示した。この教養講座では、「浅井忠の足跡と近代絵画の流れ」をテーマに3回実施し、浅井忠のヨーロッパ時代を中心に、バルビゾン派の絵画を始め、ヨーロッパの絵画史の理解を深める機会とした。

- 1 7月13日（土）「浅井忠の画業」
前川 公秀（本館学芸課長） 106人
- 2 8月24日（土）「バルビゾン派と日本」
藤川 正司（本館普及課長） 85人
- 3 9月28日（土）「浅井忠の見たフランス」
井出洋一郎（明星大学助教授） 121人
(数字は参加者数)

また、この教養講座に参加した受講者を中心に、イタリア・フランスにおける浅井忠の足跡をたどり、各地の代表的な美術館を訪ね、ヨーロッパ美術の理解を深めるために「ヨーロッパの旅」を実施した。

実施期間 11月14日（木）～11月23日（土）
参加者数 16名

主な訪問先

イタリア

ローマ：サンピエトロ寺院、バチカン美術館

フィレンツェ：ウフィチ美術館

トリノ：トリノ近代美術館

ミラノ：グラツィエ教会

フランス

ポンテンブロー：バルビゾン村、グレー村

パリ：オランジュリー美術館、オルセー美術館、ルーヴル美術館



■ 実技講座

(1) 日本画講座

期日 平成8年6月25日(火)・26日(水)・
27日(木)・29日(土)・30日(日)・
7月2日(火)・3日(水)・4日(木)・
6日(土)・7日(日)・9日(火)・
10日(水)
(12日間／うち講師の指導日数は8日間)

講師 棚橋文子氏

受講者数 20人

内容 花、果物、人物等のモチーフにより制作した。岩絵具、にかわ、筆、紙等の材料・用具の取り扱い方など基礎的な学習をした後、彩色の技法を中心に学習した。

(2) 洋画講座

期日 平成8年5月30日(木)・31日(金)・
6月1日(土)・4日(火)・5日(水)・
8日(土)・9日(日)・11日(火)・
12日(水)
(9日間／うち講師の指導日数は6日間)

講師 大隈武夫氏

受講者数 27人

内容 着衣と裸婦をテーマにデッサン、構図、彩色など油彩画の基礎的技法を学んだ後、より幅広い表現について学習した。

(3) 版画講座

期日 平成8年6月6日(木)・7日(金)・
8日(土)・11日(火)・12日(水)・
13日(木)・15日(土)・16日(日)・
18日(火)・19日(水)・20日(木)・
21日(金)
(12日間／うち講師の指導日数は8日間)

講師 増田陽一氏

受講者数 22人

内容 銅板、亜鉛板を素材に、凹版画の制作を行った。版画の材料や用具の取り扱い方、エッチングやアクワチントなどの各種技法や刷りの技術について学習した。

(4) 彫刻講座

期日 平成8年10月15日(火)・16日(水)・
19日(土)・20日(日)・22日(火)・
23日(水)・25日(金)・26日(土)・
27日(日)・29日(火)・30日(水)・

31日(木)

(12日間／うち講師の指導日数は9日間)

講師 石橋亘氏

受講者数 11人

内容 白御影石を素材に、動物や人物、抽象形態など自由に制作した。石のみやドリル等各種工具類の取り扱い方を学び、石の彫刻技法や研磨などの幅広い表現方法を学習した。

(5) 陶芸講座

期日 平成8年7月30日(火)・31日(水)・
8月1日(木)・2日(金)・28日(水)・
9月4日(水)・11日(水)
(7日間／うち講師の指導日数は5日間)

講師 鎌田和平氏

受講者数 38人

内容 半磁器土、信楽土を素材として、花瓶、食器、茶碗などを制作した。染付や鉄絵などをテーマとして、粘土、ろくろ、釉薬調合、窯詰めなどについても学習した。

(6) 書講座

期日 平成8年12月17日(火)・18日(水)・
19日(木)
(3日間／うち講師の指導日数は3日間)

講師 宇津木雀聲氏

受講者数 13人

内容 漢字・かなの臨書を通して、書の歴史、書の味わい方、様々な表現方法を学習した。また、手紙やはがきの書き方など、実用書道も学習した。

(7) 金工講座

期日 平成9年1月28日(火)・29日(水)・
31日(金)・2月1日(土)・4日(火)・
5日(水)・8日(土)・13日(木)・
14日(金)・18日(火)・19日(水)・
20日(木)
(12日間／うち講師の指導日数は8日間)

講師 小林正利氏

受講者数 25人

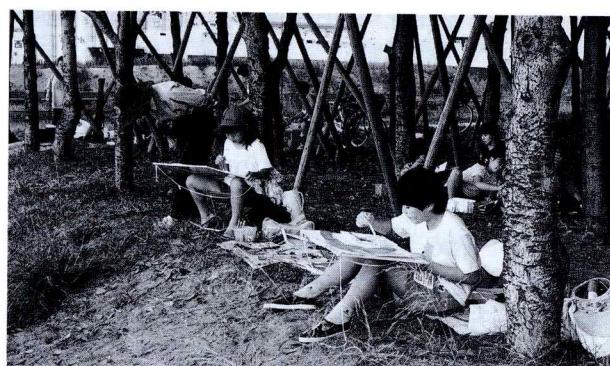
内容 動物・人物・生物・風景など自由なテーマで銅板レリーフの制作を行った。脂台や各種タガネの製作や取り扱い方を始め、鍛金や彫金の基礎的技法、また金属の着色方法などについて学習した。

■ 第1回こども写生会

千葉県立美術館では、次代を担うこどもたちに、創作の喜びを体験してもらい、美術を愛好する心情を育み、豊かな情操を養うとともに、美術館との触れ合いを通して、美術館活動への関心と興味を醸成し、利用促進を図るため、写生と展示による「こども写生会」を開催した。

写生会 9月8日（日） 参加者 136人
展覧会 9月25日（水）～9月29日（日）
表彰式 9月28日（土）

最優秀賞	千葉市立轟町小学校 第3学年 黒田裕太朗
優秀賞	千葉市立松ヶ丘小学校 第1学年 寺田真梨絵
△	大網白里町立増穂北小学校 第2学年 高取 隼人
△	四街道市立大日小学校 第3学年 川野 歩美
△	千葉市立轟町小学校 第4学年 辻 育子
△	千葉市立大宮小学校 第5学年 小原麻衣子
△	千葉市立緑町小学校 第6学年 池江 温
努力賞	市原市立京葉小学校 第1学年 小川 亮介
△	市原市立千城台東小学校 第2学年 福島 弘謹
△	千葉市立柏台小学校 第3学年 中田 智子
△	千葉市立幸町第二小学校 第4学年 河本 奈緒
△	千葉市立緑町小学校 第5学年 丹沢 里奈
△	船橋市立金杉台小学校 第6学年 久永 元太



■ 情報資料室

毎週火～金曜日（祝日・休館日を除く）12時30分～4時30分に開室し、県民の方々の美術情報資料（図書、雑誌、図録、新聞等）の利用に供した。また、各地の展覧会やイベントについて、資料室前のロビー等でポスター、チラシ、ポストカード、情報誌などにより美術情報を提供した。なお、8年度の収蔵図書については51冊を購入、48冊の寄贈を受け、美術情報資料の充実を図った。

分類別図書数

（平成9年3月31日現在）

区分	平成7年度まで	平成8年度	計
美術総記	1,454	45	1,499
絵画	1,418	32	1,450
彫刻	242	3	245
工芸	358	1	359
書	155	4	159
版画	126	1	127
デザイン・建築	75	1	76
写真・映像	175	2	177
その他	45		45
雑誌(合冊・復刻)	354	3	357
一般図書	398	7	405
合計	4,800	99	4,899

区分	平成7年度まで	平成8年度	計
購入図書	2,682	51	2,733
寄贈図書	2,118	48	2,160
合計	4,800	99	4,899

（展覧会図録を除く）

■ 活動協力

□ 千葉県立美術館友の会

1. 目的

“みる・かたる・つくる”という美術館活動に積極的に協力し、楽しい雰囲気のなかで、教養を豊かにし、美術文化の向上をはかり会員相互の親睦を深める。

2. 組織

- (1) 会員数 個人会員 612人、賛助会員 1人
(2) 役員 名誉会員 10人、会長 1人
副会長 3人、監事 2人
理事若干数

3. 事業

- (1) 友の会だより「しおさい」の発行、年4回。
各1,000部印刷し、会員に配付した。
- (2) 第20回葉美会展の開催
会期 平成8年8月27日(火)～9月1日(日)
出品者 41名
展示点数 76点
- (3) 秋の美術鑑賞の旅
美術品や文化財を訪ねながら、親睦も深めるために実施した。
1・日 時 10月17日(木)
2・行 先 長泉院附属現代彫刻美術館
日本近代文学館
目黒雅叙園
東京都現代美術館
3・参加者数 48人
- (4) 館事業への協力
館に協力して、特別展等の図録販売・実技講座の開催のほか、講演会など県民アトリエ事業に積極的に参加した。
- (5) その他
テレホンカード・絵葉書・額縁・額絵・図書等の販売

4. 平成8年度友の会実技講座

洋画入門講座(1)

期日 6月14(金)・15(土)・16(日)・18(火)・
19(水)・20日(木)(6日間)
講師 戸田健夫氏
受講者数 20人

洋画入門講座(2)

期日 7月12(金)・13(土)・14(日)・16(火)・
17(水)・18日(木)(6日間)
講師 渡辺晋氏
受講者数 40人

洋画入門講座(3)

期日 8月2(金)・3(土)・4(日)・6(火)・
7(水)・8日(木)(6日間)
講師 根岸茂行氏
受講者数 36人

洋画入門講座(4)

期日 9月13(金)・14(土)・15(日)・18(水)・
19(木)・20日(金)(6日間)
講師 関和弥氏
受講者数 24人

洋画入門講座(5)

期日 10月18(金)・19(土)・20(日)・22(火)・
23(水)・24日(木)(6日間)
講師 松沢茂雄氏
受講者数 38人

洋画入門講座(6)

期間 1月18(土)・19(日)・21(火)・22(水)・
23(木)・24日(金)(6日間)
講師 渡辺晋氏
受講者数 33人

洋画入門講座(7)

期間 3月1(土)・2(日)・4(火)・5(水)・
6(木)・8日(土)(6日間)
講師 根岸茂行氏
受講者数 36人

日本画入門講座

期日 12月3(火)・4(水)・5(木)・6(金)・
7(土)・10日(火)(6日間)
講師 斎藤惇氏
受講者数 27人

版画入門講座

期日 1月9(木)・10(金)・11(土)・12(日)・
14(火)・15(水)・16(木)・17(金)・
21(火)・22日(水)(10日間)
講師 生田宏司氏
受講者数 20人

デッサン入門講座(1)

期日 7月25(木)・26(金)・27(土)・28日(日)(4日間)
講師 御園正男氏
受講者数 26人

デッサン入門講座(2)

期日 2月6(木)・7(金)・8(土)・9日(日)(4日間)
講師 根岸茂行氏
受講者数 33人

□ 博物館実習

各大学の依頼により、学芸員資格取得希望の学生を下記のとおり受け入れた。
平成8年7月22日～7月27日

跡見学園女子大学1人、学習院大学2人、金沢美術工芸大学1人、群馬県立女子大学1人、駒沢大学1人、女子美術大学1人、千葉大学2人、東京工芸大学1人、道都大学1人、トキワ松学園横浜美術短期大学1人、日本大学大学院1人、武藏野美術大学1人(計12大学、14人)

□ 展覧会協力

柏市に開設された生涯学習等の中核的施設である「さわやかちば県民プラザ」の県民ギャラリーにおいて、所蔵作品による展覧会を開催した。

房総と近代美術

—千葉県立美術館所蔵作品による—

会 場 さわやかちば県民プラザ
県民ギャラリー
会 期 平成8年11月15日（金）～
11月28日（木）
12日間
展示点数 31点

〈日本画〉

- | | | |
|---------|-----|------|
| 1 石井 林響 | 春秋 | |
| 2 富取 風堂 | 親子猿 | 1964 |
| 3 関 主税 | 潤声 | 1977 |
| 4 松尾 敏男 | 歴程 | 1984 |

〈洋画〉

- | | | |
|---------|-------------|---------|
| 1 ミレー | 垣根に沿って草を食む羊 | 1860~61 |
| 2 浅井 忠 | 漁婦 | 1897 |
| 3 都鳥 英喜 | 洛北の早春 | 1934 |
| 4 石井 柏亭 | 信州風景 | 1948 |
| 5 梅原龍三郎 | 皇居 | 1980 |
| 6 柳 敬助 | 婦人像 | |
| 7 笹岡 了一 | 山西 | 1984 |
| 8 中西 利雄 | 南仏風景 | 1930 |
| 9 小堀 進 | 山 | 1965 |

〈彫刻〉

- | | | |
|---------|------|-------|
| 1 高村光太郎 | 裸婦座像 | 1916頃 |
| 2 タ | 手 | 1918 |

〈工芸〉

- | | | |
|---------|---------|-------|
| 1 宮之原 謙 | 彩地盛連葉文壺 | 1955頃 |
| 2 香取 秀真 | 鳩香炉 | 1949 |
| 3 津田 信夫 | 変貌七色 | 1933 |

〈書〉

- | | | |
|---------|--------|------|
| 1 浅見 喜舟 | 卜居 | 1980 |
| 2 高澤 南総 | 龍虎 | 1988 |
| 3 小暮 青風 | 一閑人 | 1990 |
| 4 小川 瓦木 | 侃のイメージ | 1963 |

〈版画〉

- | | | |
|---------|----------------|------|
| 1 浜口 陽三 | びんとくるみ | 1959 |
| 2 タ | ピーマンのある静物 | 1960 |
| 3 タ | テーブル掛けとさくらんぼ | 1971 |
| 4 タ | 2匹のてんとう虫 | 1975 |
| 5 タ | 二匹の蝶 | 1977 |
| 6 深沢 幸雄 | 指の間の記憶B | 1970 |
| 7 タ | 窓 | 1972 |
| 8 タ | 凍れる歩廊(ベーリング海峡) | 1978 |
| 9 タ | 憂愁市街（迷路） | 1985 |

千葉アートセレクション

会 場 さわやかちば県民プラザ
県民ギャラリー
会 期 平成9年2月19日（水）～
3月11日（火）

展示点数 19点

〈洋画〉

- | | | |
|----------|-----------|------|
| 1 石橋 武治 | 火口 | 1951 |
| 2 タ | 筑波遠望 | 1953 |
| 3 タ | 水辺 | 1956 |
| 4 タ | 砂山 | 1966 |
| 5 タ | 水温む | 1968 |
| 6 タ | 夜の富士 | 1969 |
| 7 笹岡 了一 | 放蕩息子の帰宅 | 1960 |
| 8 タ | 孟母の家 | 1973 |
| 9 タ | 天使とヤコブの闘い | 1975 |
| 10 タ | 山西 | 1984 |
| 11 桜田 精一 | 冬の並木道 | 1965 |
| 12 タ | 追憶 | 1974 |
| 13 タ | 白い舟 | 1985 |

〈版画〉

- | | | |
|---------|-----------------------|------|
| 1 池田 良二 | Scattered Seeds | 1979 |
| 2 タ | Together again | タ |
| 3 タ | Martin | タ |
| 4 タ | Lack | 1980 |
| 5 タ | Tristeza | タ |
| 6 タ | Nobodys knows my mind | 1981 |

□ 貸出資料一覧

作家名	作品名	出陳展覧会名	会期・展示会場	貸出先
安 井 曾太郎	熱海附近	「安井曾太郎展」	8.4.6~5.19 兵庫県立近代美術館	兵庫県立近代美術館
浅 井 忠 柳 源 吉	A pictorial Musrum of Japanese Manners and Customs	「映画生誕百年展 映画伝来—シネマトグラフと <明治の日本>」	8.4.19~5.19 福岡県立美術館	渋谷区立松濤美術館 兵庫県立近代美術館 福岡県立美術館 朝日新聞社
大 下 藤次郎 真 野 紀太郎	紫陽花 青梅 久々子湖 バラ バラ	「萬鉄五郎・ 水彩画の目覚めと展開」展	8.4.27~6.2 萬鉄五郎記念美術館	萬鉄五郎記念美術館
コ 口 一	ナポリ近郊の思い出	「印象派の誕生」	8.5.2~6.2 東武美術館	東武美術館
国 松 桂 溪	仏国トルドンヌ	「国松桂溪展」	8.5.18~6.23 栗東歴史民俗博物館	栗東歴史民俗博物館
鳩 川 誠 一	かもめ	「ふくしまの美術 —昭和のあゆみ」展	8.6.8~7.14 福島県立美術館	福島県立美術館
浅 見 喜 舟	蘭亭序（篆書） 千字文（草書） 崔子玉座右銘（行書）	「浅見喜舟生誕100年書展」	8.6.9~7.14 成田山書道美術館	成田山書道美術館
服 部 正一郎	海鹿島山	「関東の海景展」	8.6.26~8.4 常陽第百郷土会館内 藝文ギャラリー	財団法人 常陽藝文センター
長谷川 良 雄	高等工芸学校西裏通り 晩秋 下鴨	「京都の美術、 昨日・きょう・明日 20 長谷川良雄の水彩・併設； 新収品を含む所蔵品展示」	8.7.6~8.4 京都市美術館	京都市美術館
松 尾 敏 男	歴程	「松尾敏男展」	8.9.3~9.8 東京日本橋三越	読売新聞社
石 井 柏 亭	晩秋行楽図 信州風景 舞姫	「石井柏亭」展	8.9.13~10.20 信州新町美術館・ 有島生馬記念館	信州新町美術館・ 有島生馬記念館
浅 井 忠	農婦 フォンテンブローの夕景	「フランス絵画と浮世絵 —東西文化の架け橋 林忠正一」展	8.9.28~10.27 高岡市美術館 8.11.2~12.1 ふくやま美術館 8.12.7~9.1.26 茨城県近代美術館	高岡市美術館 ふくやま美術館 茨城県近代美術館 美術館連絡協議会
和 田 英 作	塚本靖肖像	「結成100年記念 白馬会—明治洋画の新風」	8.10.19~11.28 石橋財団ブリヂストン美術館 8.12.10~9.1.26 京都国立近代美術館 9.2.7~3.16 石橋美術館	石橋財団ブリヂストン美術館 京都国立近代美術館 石橋美術館 日本経済新聞社
石 井 雙 石	水廣魚游 午睡 五里霧中 清風明月醉時歌 雙松在前軒 故人今人如流水 一笑百印	「石井雙石」展	8.12.3~12.12 大網白里町 保健文化センター	大網白里町教育委員会
田 中 路 人	豊漁	「田中路人展」	8.12.15~12.27 9.1.5~1.18 東海村ステーションギャラリー	財団法人東海村文化・ スポーツ振興財団
浅 井 忠	田植之図	「明治日本画の新情景 —ひと・まち・しぜん」	8.12.20~9.1.26 山口県立美術館	山口県立美術館
高 村 光太郎	裸婦座像 手 大倉喜八郎の首	「日本の近代彫刻展」	9.2.22~3.23 長野県信濃美術館	長野県信濃美術館

調査・収集事業

展覧会企画や資料収集等に関連して、調査研究を進めた。資料収集については、日本画15点、洋画13点、彫刻3点、工芸9点、書13点、版画2点を新たに収藏した。

■ 収蔵資料 (※寸法はセンチメートルを単位とし、平面作品は縦×横、立体作品は高さ×幅×奥行で表示。)

〈日本画〉

1 浅井 忠	狂女	
	紙本着彩	21.0×18.2
2 立石秀春	九十九里浜	1993
	紙本着彩	200.0×200.0
3 富取風堂	南天	
	絹本着彩	150.0×18.0
4 富取風堂	椿と鶯鳴	
	絹本着彩	150.0×18.0
5 富取風堂	藤と懸巣	
	絹本着彩	150.0×18.0
6 富取風堂	八重桜	
	絹本着彩	150.0×18.0
7 富取風堂	白梅	
	絹本着彩	140.9×40.0
8 富取風堂	魚と胡瓜	
	絹本着彩	58.2×60.7
9 富取風堂	柿と軍鷄	
	絹本着彩	55.0×61.0
10 富取風堂	海老	
	絹本着彩	51.2×55.8
11 富取風堂	牡丹	
	紙本着彩	74.6×63.5
12 富取風堂	朝顔と蜻蛉	
	紙本着彩	68.0×59.0
13 富取風堂	罿粟	
	紙本着彩	82.5×63.8
14 富取風堂	菊花	
	絹本着彩	50.2×54.8
15 富取風堂	酸漿と鵠鵠	
	絹本着彩	49.6×54.8

〈洋画〉

1 大下藤次郎	波	1926
	紙・水彩	21.0×32.4
2 大野隆徳	不忍池の初夏	1929
	キャンバス・油彩	41.0×27.3
3 大野隆徳	宇治平等院鳳凰堂	1931
	キャンバス・油彩	33.5×41.5
4 大野隆徳	ジョッキにさせるばら	1929
	キャンバス・油彩	46.0×38.0
5 大野隆徳	信濃路の雪(2)	1937頃
	キャンバス・油彩	32.0×41.5
6 大野隆徳	北京・北海の春(一)	1938
	キャンバス・油彩	45.5×53.5
7 篠崎輝夫	トルファン閑日	1996
	キャンバス・油彩	91.0×65.2

8 篠崎輝夫

西域紀行

1995

キャンバス・油彩

194.0×162.0

僕たちの将来ー重い雲ー 1996

キャンバス・油彩

194.0×260.0

影

1996

キャンバス・油彩

130.0×260.0

11 三宅克己

美濃養老公園

33.4×45.2

二月風景

1930

キャンバス・油彩

53.0×41.0

まなざし・1944

1996

キャンバス・油彩

261.0×196.0

〈彫刻〉

1 大須賀力

或るポーズ

1988

ブロンズ

123.0×50.0×57.5

老馬

1921

ブロンズ

21.2×34.0×9.8

砂あそび

1997

木

58.5×49.0×41.8

〈工芸〉

1 岩田藤七

茶碗

ガラス

13.8×5.7

茶碗

ガラス

14.7×6.3

水指

ガラス

12.0×21.5

水指

ガラス

12.0×21.5

水指

ガラス

12.0×21.5

花瓶

ガラス

12.0×18.0

宴野

1996

彫金・鍛金

30.0×30.0×29.0

崎

1968

鋳金

50.0×19.0

鸚鵡

陶彫

26.0×29.5

〈書〉

1 今 関 僔 竹	山峠の水 紙・墨・屏風(2曲1隻) 各139.0×69.5	1964	9 小 暮 青 風	石見の海 紙・墨 66.0×170.0	1979
2 今 関 僔 竹	秋花 紙・墨 24.5×39.0	1969	10 小 暮 青 風	春風馬提曲 紙・墨／20枚(折本)	1981
3 今 関 僔 竹	石山 紙・墨 101.0×67.0	1973			38.0×15.0×20
4 今 関 僔 竹	白雪 紙・墨 69.5×129.5	1983	11 小 暮 青 風	旅に病んで 紙・墨 215.0×55.0	1985
5 今 関 僔 竹	若草山 紙・墨 69.0×136.0	1986	12 小 暮 青 風	若き日に 紙・墨 66.0×170.0	1995
6 今 関 僔 竹	左千夫の歌 紙・墨 134.0×51.0	1988	13 小 暮 青 風	刀祢河泊之 紙・墨 242.0×82.0	
7 今 関 僔 竹	ふるさと 紙・墨・屏風(6曲1隻) 各136.0×51.5	1981			
8 小 暮 青 風	巻向之 紙・墨 66.0×170.0	1967			

〈版 画〉

1 東 山 魁 夷	濤声	1994
2 山 下 哲 郎	TRAVEL-12	1996

収蔵資料数一覧

平成9年3月31日現在

種別	番号	購 入	寄 附	保 管 換	合 計
日本画		123	134	26	283
洋 画		333	388	43	764
彫 塑		79	25	14	118
工 芸		135	111	10	256
書		109	88	14	211
版 画		152	53	5	210
合 計		931	799	112	1,842
研 究 資 料		243	1,237	53	1,533

管 理 運 営

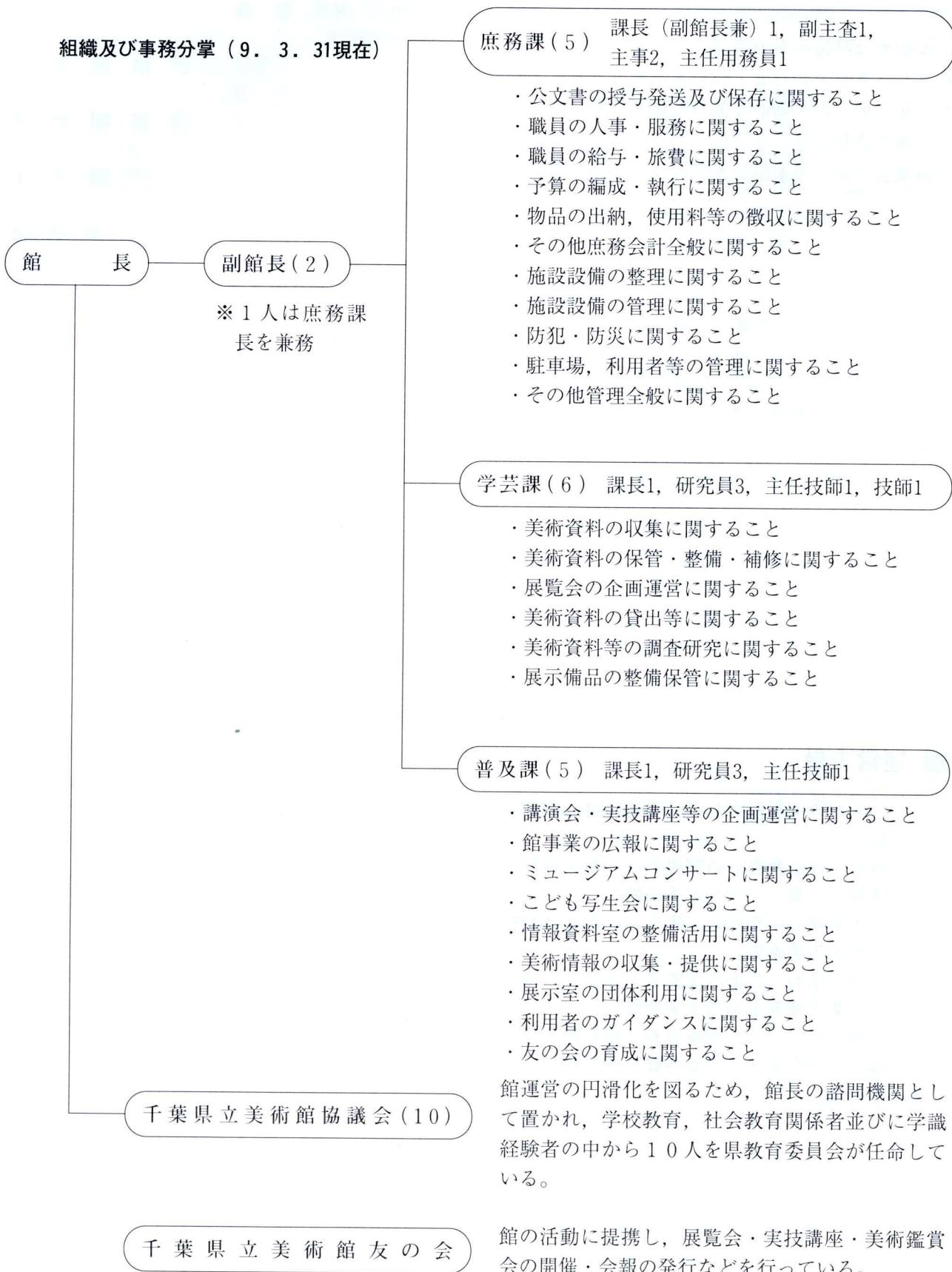
本館では県民のための開かれた明るい美術館をめざし「みる・かたる・つくる」をモットーとして、総合的、かつ動的な美の広場を目指して展示・普及活動を行っている。

協議会では、美術館の運営について諮問を行った。

■ 運営方針

- ・ 県民のための美術館として、明るい親しまれる美術館。
- ・ 学校教育・社会教育との関連から、教育普及活動を重視し、楽しく学べる美術館。
- ・ 県民と美術家との交流の広場とし、相互の理解と向上を図る美術館。
- ・ 房総の地に関わりのある美術家の作品と、関係資料の収集と研究をめざす美術館。
- ・ 美の広場として、広く美術資料・情報等を収集し、みる・かたる・つくる活動を総合的に展開する美術館。

■ 機構



■ 平成 8 年度職員

館 長 森 成 吉
副 館 長 小 池 賢 博
副 館 長 飯 田 浩 二
兼庶務課長

庶 務 課

副 主 査(派) 大 堀 昭 一
主 事(々) 川 内 啓 子
々 (々) 藤 田 大
主任用務員(々) 長 島 則 子

普 及 課

普及課長 藤 川 正 司
研究員(派) 濱 田 芳 久
々 (々) 金 田 雅 成
々 (々) 相 川 順 子
主任技師(々) 中 松 れ い

学 芸 課

学芸課長 前 川 公 秀
研究員(派) 篠 田 哲 也
々 (々) 太 田 武 彦
々 (々) 椎 名 敦 夫
主任技師(々) 幅 大
技 師(々) 三 浦 拓 郎
嘱 託 福 澤 徳 治

■ 県立美術館協議会委員

石 川 陸 郎 東京国立博物館学芸部保存修復管理官
石 崎 朋 夫 千葉県経営者協会専務理事

久 米 公 大東文化大学文学部教授
久保田 芳 彦 日本放送協会千葉放送局長
齋 藤 志貴雄 前千葉県立千葉東高等学校校長

櫻 井 和 一 千葉県高等学校教育研究会美術工芸部会長
(8. 7. 1 ~)
新 城 瑠 璃 ネスコ(株)相談役
(千葉県立美術館友の会副会長)

滝 沢 功 千葉県教育研究会造形部会長
(8. 7. 1 ~)
長谷川 昂 前千葉県美術会長
藤 井 チズ子 共立女子大学文芸学部非常勤講師
(~8. 12. 24)
松 本 哲 哉 千葉県教育研究会造形部会長
(~8. 6. 30)

水 野 量 司 千葉県高等学校教育研究会美術工芸部会長
(~8. 6. 30)

■ 利用状況

入館者数一覧

種別 月	開館 日数	個 人			團 体						人數 合計	備 考		
		一般 成 人	大・ 高 生	中・ 小 生	一般成人		大・高生		中・小生					
					人 数	團 体 数	人 数	團 体 数	人 数	團 体 数				
4	25	6,244	157	862	186	5	0	0	38	1	7,487			
5	27	13,016	771	1,129	432	10	241	1	32	1	15,621	特別展アルフォンス・ミュシャ 「生涯と芸術」展		
6	26	18,567	2,072	4,057	1,001	20	29	1	174	3	25,900			
7	26	9,512	267	2,013	487	8	0	0	78	3	12,357			
8	27	8,394	679	2,908	96	4	0	0	123	2	12,200			
9	25	8,949	244	1,142	298	5	0	0	76	1	10,709	特別展 「椿貞雄展」		
10	23	14,252	729	1,160	469	11	210	1	74	2	16,894			
11	25	12,051	978	3,068	447	11	79	2	244	4	16,867			
12	21	12,230	101	8,462	243	8	0	0	362	7	21,398			
1	23	9,002	95	938	453	16	0	0	115	1	10,603			
2	24	12,149	925	3,436	201	7	0	0	414	4	17,125			
3	26	8,832	346	1,473	450	10	0	0	0	0	11,101			
計	298	133,198	7,364	30,648	4,763	115	559	5	1,730	29	178,262			

開館以来 総開館日数 6,528日 総入館者数 3,824,769人

地域別入館者数

種別 月	開館 日数	県 内		県 外		外 国
		千葉市	その他の	東京都	その他の	
4	25	3,919	2,690	326	543	9
5	27	6,414	7,184	528	1,466	29
6	26	10,514	13,150	1,216	994	26
7	26	4,812	6,056	907	557	25
8	27	4,228	7,006	321	633	12
9	25	3,835	6,056	393	413	12
10	23	5,540	10,605	292	439	18
11	25	5,100	10,289	756	707	15
12	21	3,721	17,071	253	340	13
1	23	3,651	6,111	503	330	8
2	24	6,900	9,183	354	682	6
3	26	3,955	5,598	847	692	9
計	298	62,589	100,999	6,696	7,796	182

■ 展示室利用団体

太字は千葉県芸術フェスティバル事業

No.	展覧会名	期間	作品種別	展示点数
1	第33回全日本綜合書道大展覧会	4/9-14	書	709
2	第7回千葉県木彫会展	々	彫刻	42
3	第20回鳳聲会書作展	4/16-21	書	112
4	第66回郷陽会展	々	洋画	151
5	第10回記念ガラス絵コクリコ会展	々	その他	85
6	MUSABI展	4/23-29	日本画・洋画・立体	42
7	第23回千葉新協展	々	洋画	95
8	第22回歩会彫刻展	4/23-5/6	彫刻	51
9	第10回千葉水彩展	5/1-6	洋画	82
10	第27回表美展	々	その他	150
11	第20回墨の県展	5/8-12	日本画・洋画・写真	211
12	第36回千葉アマチュア美術会展	5/14-19	日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真・立体・その他	1,425
13	第14回日中友好書道展覧会	5/21-26	洋画・書	5,036
14	第41回二科会千葉支部展	5/28-6/2	洋画	799
15	第22回模展	々	日本画・洋画・彫刻・工芸・写真・立体	67
16	第21回関東全展	6/4-9	日本画・洋画	160
17	第23回千虹会日本画展	6/4-16	日本画	38
18	第43回千葉県書道協会展	6/11-16	書	502
19	千葉幼児美術展	々	洋画	1,800
20	第24回水彩連盟千葉支部展	6/18-23	々	55
21	第19回千葉一陽展	々	々	234
22	第11回日本画四季展	6/18-30	日本画	64

No.	展覧会名	期間	作品種別	展示点数
23	第18回新槐樹社千葉県支部展	6/25-30	洋画・彫刻	41
24	〈明日を拓く〉教育美術展	々	洋画	2,500
25	第19回精銳展	々	々	141
26	第40回千葉県小中学校書写展	7/2-7	書	1,500
27	千葉二紀会展	々	洋画	102
28	第10回カラーダスト展	々	々	60
29	第28回千葉市水墨画同好会連合会展	7/9-21	日本画	484
30	第13回千葉中美展	7/23-28	日本画・洋画	61
31	第17回龍峠書道会千葉展	々	書	310
32	日本水彩画会第12回千葉県支部展	々	洋画	64
33	第30回記念漱雲会全国書道展	々	書	645
34	第25回写真千葉県展	7/30-8/11	写真	371
35	第90回習美会初夏大作展	7/30-8/4	日本画・洋画	184
36	第6回太平洋美術会千葉支部展	8/6-11	洋画・彫刻・工芸	146
37	第10回白亜美術千葉支部展	々	日本画・洋画	40
38	第26回いてふ会彫刻展	8/6-18	彫刻	57
39	第36回白扇書道会展	8/20-25	書	3,618
40	第16回日本春秋書院千葉書連展	8/27-9/1	々	89
41	第21回葉美会展	々	日本画・洋画・写真	79
42	第13回「美しい郷土」 絵画コンクール優秀作品展	々	洋画	684
43	第34回新世紀美術千葉支部展	9/3-8	々	63
44	'96第一美術協会千葉県支部展	々	洋画・彫刻・工芸	119

No.	展 覧 会 名	期間	作 品 種 别	展示点数
45	第26回新構造千葉支部展	9/3-8	洋画・彫刻・工芸・写真	165
46	第19回等迦会千葉支部展	9/10-16	洋画	60
47	第29回千葉県高校芸術祭「合同写真展」	〃	写真	454
48	第12回日本書道学会千葉県連展	9/10-16	書	160
49	第19回千葉県写真展	9/10-23	写真	140
50	第46回デザインフェスタCHIBA	9/18-23	デザイン	91
51	第43回千葉県勤労者美術展	〃	日本画・洋画・書・写真	321
52	第28回ファンシー洋画展	〃	洋画	79
53	第7回千葉県教育芸術祭	10/1-6	日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真・その他	685
54	第16回二科会写真部千葉支部展	〃	写真	81
55	第48回千葉県美術展覧会(県展)	10/12-11/4	日本画・洋画・彫刻・工芸・書	2,542
56	千葉県高校芸術祭「美術・工芸・書道作品展」	11/7-17	日本画・洋画・彫刻・デザイン・工芸・書・その他	3,492
57	第28回千葉現展	11/19-24	洋画・写真	65
58	第23回文化書道千葉県連合会公募展	〃	書	365
59	ダネラ展	〃	工芸	48
60	第41回こども県展	11/26-12/8	洋画	10,076
61	第14回明るい社会づくりポスターコンクール展	12/10-15	〃	1,200
62	富士百景写真展	1/7-12	写真	109
63	第32回登龍社書初展	〃	書	371
64	平成8年度千葉市観光絵画と写真コンクール作品展	1/21-26	洋画・写真	110
65	第14回千葉県医師会美術展	〃	日本画・洋画・工芸・書・写真	113
66	第30回千葉県老人クラブ会員作品展	〃	日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真・その他	318

No.	展 覧 会 名	期間	作 品 種 别	展示点数
67	第24回千葉県書壇秀抜・新進展	1/28-2/2	書	421
68	群鴻書人展	2/4-9	々	49
69	第12回書星選抜展	々	々	275
70	第49回千葉県小中高校書初展	々	々	721
71	千葉大学教育学部美術科図工科 卒業制作展	2/11-16	洋画・彫刻・デザイン・工芸・その他	54
72	第31回千葉大学学生書道展	々	書	200
73	県立幕張総合高等学校書道コース 卒業制作展	々	々	59
74	第2回翔洋展	2/18-23	洋画	44
75	第22回こども造形展	々	洋画・彫刻・デザイン・立体・その他	1,500
76	平成8年度文化作品展	々	日本画・洋画・工芸・書・写真	147
77	第26回千葉県大学美術連盟展	2/25-3/2	洋画・彫刻・写真	82
78	第22回千葉県民写真展	々	写真	434
79	和洋女子大学卒業展（第22回雁鴻会 書道展）	3/4-9	書	183
80	第8回日本童謡の書展	々	々	2,325
81	第20回唱和会書展	3/11-16	々	206
82	第44回書星教育部展	3/18-23	々	902
83	第3回千葉独立展	3/25-30	洋画	75

施 設

この建物は、幾つかの建設候補地の中から、千葉港に隣接した臨海埋立地の一角に計画された。計画着手当時はこの付近は訪れる人も少なく、海を通して石油基地のタンク群や工場と煙を吐き出す煙突が望める環境であった。

このような当初の環境下で、空気汚染、降下煤塵そして塩害など、建物に与える悪影響が予測されるために、材料の選択、構法、空調計画等は十分な検討がなされた。以下、主な部分について記す。

外壁の打込みタイルー先積ブリック構法

従来の外壁をコンクリートで表現している建物とは異なり、炻器質タイルを型枠代にしてコンクリートを一体に打ち込む構法を用いた。

使用したタイルは従来の断面と異なり、コの字型の断面をしており、型枠にセットせずモルタルにて積上げられるように見込み寸法を5cmの厚みにしてある。

施工方法は、内型枠、配筋工程の次のタイルを積み5段毎に型枠のホームタイを通し、2,400mm程度まで積み上げ单管にて固定する。この2,400mmの高さは、設計段階での試作実験にて安全を確認した数値である。試作段階での支保工は、縦方向に角材を400ピッチに通し、横方向に单管を480ピッチに通し固定したが、施行時は、縦方向に单管を480ピッチに通して固定した。コンクリートの打設は、1.5m~2.0m/hの速度を目標に行い、ポンプにて打設可能な程度までスランプを下げた。この工程を繰返しタイル壁面を構成していった。

タイル面の施工時の汚れ防止には、ふのりを塗布した。タイルの目地は積み上げる工程で仕上げられ、表面に表われない目地の空隙にコンクリートのノロが滲み込んでゆき、目地からの滲透水を防げ満足する状態に仕上がった。

屋根の天然スレート

前述のような環境のもとで、勾配屋根に適し、十分にもちこたえられる材料としては耐候性鋼等が考えられたが、調査の結果により天然スレートを使用した。

空調計画

計画当初より、良好とはいえない外部環境から美術品をいかに保護するかが、海滨に建つ美術館として、ひとつの重要なテーマだった。外気取入れは、内部に自動巻取りフィルター、中性能フィルター、脱臭フィルターの3種類の空気清浄フィルターを組込んだ外気処理器を通して供給されている。

展示棟はCAV（定風量型）+VAV（可変風量型）方式により計画されている。わが国の美術館は、平常の館内利用者に対して特別展や団体展等のときに非常に利用者がふえて、発熱負荷の変動が大きくなる。VAV方式は、こういった条件に対して非常に効果的であるといえる。

管理棟は、エネルギーの省力化にも役立つVAV方式を採用し、収蔵庫は、露点再熱制御方式により二つの条件の

異なる収蔵庫を2台の空調機で空調されている。

照明計画

展示壁面は、自然光源と人工光源により全体計画されている。

自然光源は展示棟の高窓から取り入れられ、外部の溝型ガラスと内部の紫外線吸収のアクリル拡散板を経て壁面に達する。しかし、太陽直射光の鉛直面照度は8時から15時の間で10%の時間が $80,000\text{lx}$ 以上、30%の時間が $50,000\text{lx}$ 以上、50%の時間が $25,000\text{lx}$ （平均）以上、90%の時間が $5,000\text{lx}$ 以上という測定値があり、また水平面照度にしても $50,000\text{lx}$ （薄暗）から $5,000\text{lx}$ （曇天）の範囲と非常に明るい。このように必要以上に明るい光源は、調光通路内に設けられた2枚の電動スクリーン（これは、計算値により鉛直面照度 $60,000\text{lx}$ 以上の条件のとき必要な枚数で、それぞれ異なる透過率を有する布を使用した）にて基準の壁面照度になるよう調光される。

計算値による通過率をもつクロスでの何回かの現場実験の結果、クロスは白地のポリエステル（通過率53.6%）と黒地のジョーゼット（通過率35%）の2枚を採用した。ここで留意すべき点は、クロスの遮光性能を良くするために、厚地の布や、コーティングされた布を使用すると壁面に色がつくことがある。壁面の照度分布の状態は、視覚的に均一な壁面が確保できた。

曇天・雨天に対しては、蛍光灯と白熱灯を補助照明として設置した。蛍光灯と白熱灯を併用したのは、演色性を高めるためである。

第1、2展示室は、すべて蛍光灯と白熱灯による人工光源で計画されている。壁面照度は、最高 200lx に抑えている。

固定ケースは基準照度を 180lx に設定した。照明方法は、全面アルミルーバーの天井ふところに蛍光灯を2本並列させ、その間に白熱灯2個を配置した。

〈設計及び工事監理者〉

大高建築設計事務所

〈施工者〉

建築：(株)竹中工務店

設備：空調＝東洋熱工業（株）

衛生＝第一管工事（株）

電気＝関東電気工事（株）

備品：天童木工、山口木工、佐々木ブラインド

〈都市計画地域指定〉

用途地域：準工業地域

〈規模・面積〉

敷地面積 33,057.87m²

建築面積 8,777.94m²

延床面積 10,663.57m²

展示棟 6,343.02m²

管理棟 2,818.89m²

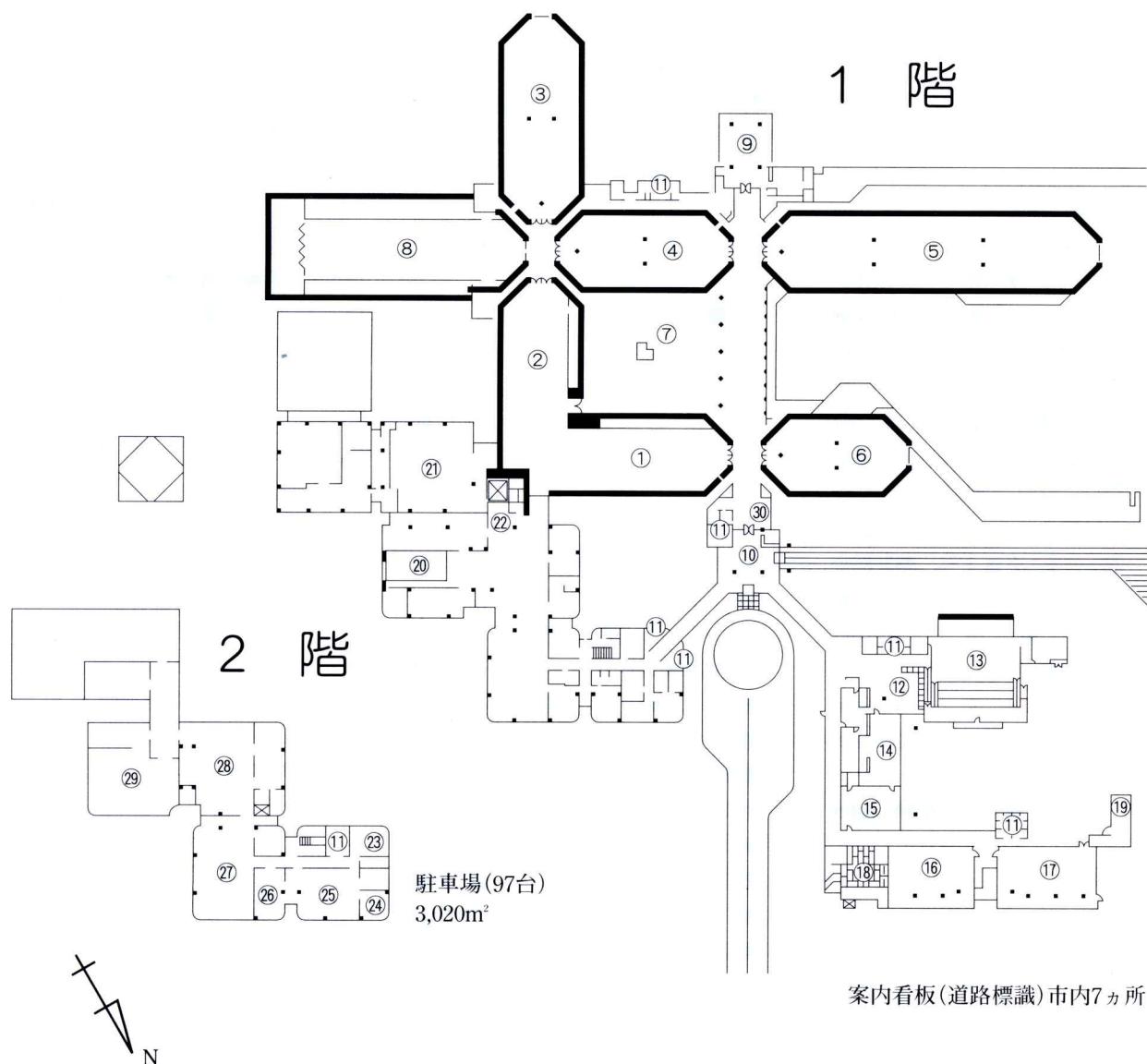
県民アトリエ棟 1,501.66m²

駐車台数 97台

展示棟		管理棟		*展示室総面積 4,296.30m ²	
玄関ホール	102.40m ²	(1階)		*収蔵庫総面積 771.50m ²	
口一ク	91.80 m ²	第2会議室	22.62m ²		
倉庫A	2.70m ²	更衣室	14.83m ²		
クB	タ	医務室	21.18m ²	県民アトリエ棟	
第1展示室	437.76m ²	書庫	22.02m ²	1F機械室	25.92m ²
タ2タ	400.32m ²	警備員室	43.59m ²	講堂倉庫	8.64m ²
タ3タ	469.08m ²	第1会議室	20.15m ²	講堂	259.24m ²
タ4タ	403.20m ²	倉庫	7.19m ²	コントロール室	30.33m ²
タ5タ	824.19m ²	湯沸室	5.19m ²	ホール側便所	29.97m ²
タ6タ	330.58m ²	便直所	24.54m ²	情報資料室	172.77m ²
タ7タ	566.56m ²	宿直室	34.20m ²	情報資料室倉庫	4.70m ²
タ8タ	864.61m ²	物置	9.92m ²	事務室	22.76m ²
食堂堂	119.52m ²	用務員室	31.83m ²	研修室倉庫	74.70m ²
厨房房	36.00m ²	審査室・資料室	520.68m ²	研修室	4.23m ²
従業員控室	17.28m ²	準備室・荷解室		第1アトリエ	155.70m ²
食堂ホール	49.20m ²	消毒室	31.79m ²	タ2タ	184.31m ²
ミュージアムショップ	12.00m ²	資料倉庫	124.25m ²	タ3タ	95.47m ²
口ビ	335.52m ²	荷解梱包室	52.67m ²	アトリエ側便所	20.77m ²
第1休憩室	23.04m ²	荷扱人室	21.94m ²	荷解室	25.65m ²
タ2タ	タ	機械室	51.74m ²	窯場	27.17m ²
タ3タ	タ	廊下等	123.52m ²	窯場倉庫	6.66m ²
便所A	30.24m ²			ホールその他	352.67m ²
タ	B	23.76m ²	小計	合計 ③	1,501.66m ²
身障者用便所	7.92m ²			合計	10,663.57m ²
コントロール室	20.16m ²	(2階)		(①+②+③)	
フィルター室	28.92m ²	館長室	33.27m ²		
工作室	31.00m ²	副館長室	23.42m ²		
発電気室	25.00m ²	第1応接室	14.67m ²		
電気室	123.20m ²	第2応接室	14.55m ²		
ポンプ室	76.80m ²	庶務課室	112.34m ²		
機械室	305.20m ²	会議室	43.84m ²		
機械室(新)	283.82m ²	学芸課・普及課室	195.32m ²		
高架水槽室	11.46m ²	学芸相談室	23.91m ²		
E.V機械室	27.28m ²	研究工作室	216.49m ²		
E.V廻り	54.56m ²	写真スタジオ	54.30m ²		
ダクトスペース	35.68m ²	器材室	6.74m ²		
廊下等	123.48m ²	暗室	12.19m ²		
合計 ①	6,343.02m ²	第1収蔵室	184.40m ²		
		タ2タ	42.81m ²		
		タ3タ	544.29m ²		
		E.V前室	16.39m ²		
		便所	21.50m ²		
		湯沸室A	3.24m ²		
		タB	6.87m ²		
		廊下等	60.94m ²		
		ダクトスペースその他	3.56m ²		
		小計	1,635.04m ²		
		合計 ②	2,818.89m ²		

内容

- | | |
|--------------------|-----------------|
| ①～⑧展示室 | ⑯～⑰実技室 |
| ⑨食堂 (44席) | ⑯窯場 |
| ⑩玄関ホール | ⑰搬出入口 |
| ⑪トイレ | ⑱機械室 |
| 男子用 6ヶ所 | ⑲エレベーター |
| 女子用 6ヶ所 | ⑳館長室 |
| 身体障害者用 2ヶ所 | ㉑副館長室 |
| ⑫ホール | ㉒庶務課 |
| ⑬講堂 (200人) | ㉓会議室 |
| ⑭情報資料室 | ㉔学芸課・普及課 |
| 火～金
12:30～16:30 | ㉕研究工作室 |
| ⑮研修室 (40人) | ㉖収蔵庫 |
| | ㉗ミュージアム
ショップ |



関係法令等

1. 博物館管理規則

昭和45年12月25日教育委員会規則第22号

(目的)

第1条 この規則は、教育機関設置条例（昭和32年千葉県条例第4号）第20条に規定する博物館（以下「館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第2条 館の開館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。

2. 館の長（以下「館長」という。）は、必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、開館時間を変更することができる。

(休館日)

第3条 館の休館日は、次のとおりとする。

一 定期休館日月曜日（その日が国民の祝日にに関する法律（昭和23年法律第178号）第2条に規定する日に当たるときは、その翌日）

二 国民の祝日にに関する法律に規定する休日

三 年始休館日 1月1日から1月4日まで

四 年末休館日 12月26日から12月31日まで

五 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2. 前項の休館日であっても、館長が特に必要と認めた場合は、館の全部又は一部を開館することがある。

(入館の制限)

第4条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

一 特別展覧会又は現代産業科学館の映像ホールを観覧しようとする者で、所定の観覧券を所持しない者

二 適当な指導者、保護者又は付添人のない6歳に満たない者

三 泥酔者、伝染病患者その他観覧者に不快の感を与えると認められる者

(観覧券等)

第5条 館の特別展覧会観覧券は、別記第1号様式とする。

2. 現代産業科学館の映像ホール観覧券は、別記第2号様式とする。

3. 団体（20人以上の場合をいう。）で観覧しようとするときは、あらかじめ団体観覧申込書（別記第3号様式）により、館長に申し込まなければならない。

(禁止行為)

第6条 入館者は、次に掲げる行為をしてはならない。

一 展示品に手をふれること及び展示室でインク、墨汁類を使用すること。

二 許可なくして展示品を模写し、又は撮影すること。

三 所定の場所以外の場所において喫煙又は飲食すること。

四 その他、他の入館者の妨げになるような行為すること。

(損害の賠償)

第7条 館長は、入館者が館の展示品、建物若しくは備品等をき損し、又は汚損したときは、現品又は相当の代価をもって弁償させことがある。

(委任)

第8条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長の承認を得て、館長が定める

附則

この規則は、昭和46年1月15日から施行する。

別記様式（省略）

2. 使用料及び手数料条例（抜粋）

昭和31年3月31日条例第6号

(趣旨)

第1条 県が徴収する使用料および手数料（以下「使用料等」という。）に関しては、別に規定するもののほか、この条例の定めるところによる。

(使用料の徴収)

第2条 県が所有し、又は管理する行政財産及び公の施設（以下「財産等」という。）の使用並びに特定の個人のためにする事務（以下「事務」という。）に関し、法令及び他の条例に規定するもののほか、当該財産等を使用しようとする者から使用料を、当該事務を依頼しようとする者から手数料を徴収するものとする。

(種類及び額)

第3条 前条の規定により使用料等を徴収する財産等及び事務の種類並びにその使用料等の額は、別表第一に掲げるとおりとする。

(中略)

(徴収の特例)

第8条の2 県民の日を定める条例（昭和59年千葉県条例第3号）に規定する県民の日その他規則で定める場合において、県の設置した公の施設で、規則で定めるものに係る使用料については、第2条及び第3条の規定にかかわらず、これを徴収しない。

別表第一（抜粋）

財産又は事務の種類	手数料	区分	単位	額
博物館	入館料	特別展覧会	1人1回につき	1,000円以内

(以下省略)

3. 使用料及び手数料規則（抜粋）

昭和31年千葉県規則第29号

(徴収の特例)

第7条の2 条例第8条の2の規程による規則で定めるものは、別表第六のとおりとする。

別表第六（抜粋）

行事等	施設
県民の日（6月15日）。 65歳以上の者、身体障害者 (介護者を含む。) 又は精神薄弱者が使用する場合。	博物館

利 用 案 内

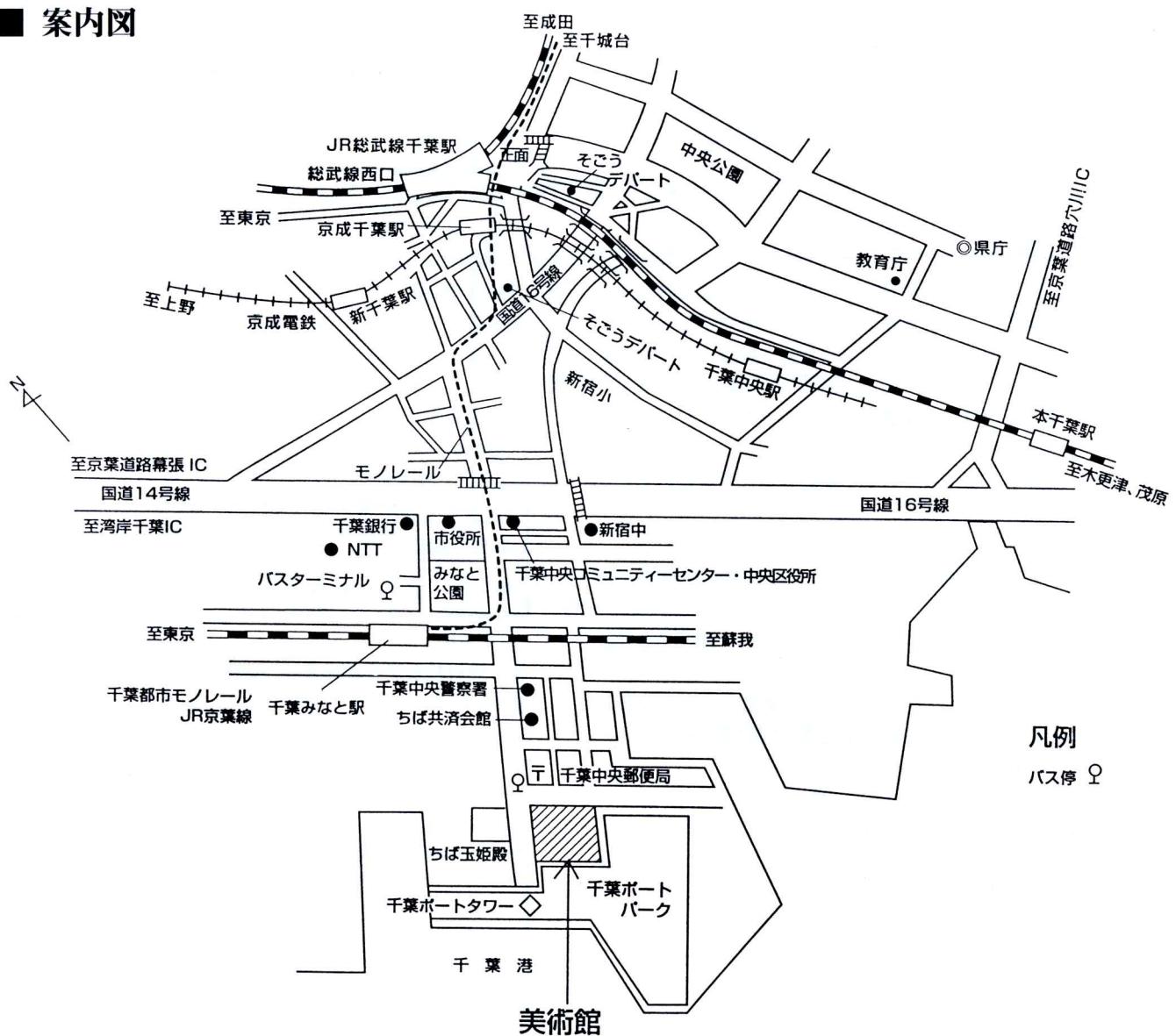
■ 開館時間

- 開館時間 午前9時から午後4時30分まで
休館日
- ・月曜日（ただし、月曜が祝日のときは開館し、翌日休館）
 - ・年末年始（12月26日～1月4日）
 - ・展示替え等のため、必要があるとき。
 - ・無料（ただし、特別展は有料）

■ 交 通

- ★JR総武線・京成線「千葉」駅下車
●徒歩23分。
●バス⑫番のりばから「千葉ポートタワー」行にて15分。「美術館・中央郵便局前」下車、徒歩1分。
★JR京葉線・千葉都市モノレール「千葉みなど」駅下車、徒歩8分。

■ 案内図



平成 8 年度千葉県立美術館年報 (No.23)

平成 9 年 5 月 31 日発行
発行者 千葉県立美術館
〒 260 千葉市中央区中央港 1-10-1
TEL 043(242)8311
印 刷 株 集 賛 舍





